

市町村名	北中城村
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	あやかりの杜滞在型施設活用事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容
長期滞在型宿泊施設やキャンプ場等がある「あやかりの杜」を活用し、野外活動や沖縄の自然や伝統文化の学習等を実施する。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	5,477	5,000	5,000	5,000	6,041
		(b) 予算現額	5,477	5,000	5,000	5,000	6,041
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	5,477	5,000	5,000	5,000	6,041
	B. 執行済額		5,028	4,991	4,993	4,998	6,039
	うち交付金充当額		4,022	3,992	3,994	3,998	4,831
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		91.8%	99.8%	99.9%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		体験交流事業	目標 (6事業)	(15事業)	(16事業)
	実績	6事業	17事業	17事業	21事業
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	既存の17事業に加え、地域等との連携により、新たに4事業を立ち上げたことで、21事業を開催することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)	
		体験交流事業の実施	目標 ()	(15事業)	(16事業)	(21事業)	()
		実績		17事業	17事業	21事業	
	体験交流参加人数	目標 ()	(500人)	(520人)	(620人)	()	
		実績		495人	519人	521人	
【H30成果目標】 体験交流人数:390人	目標					390人	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 「漆喰シーサー作り」や「ワイン・ソフレ」など、地域の団体や企業と連携した講座を企画し、新たに4事業を加えたことで成果目標を達成することができた。 講座を増やし受講機会を多くしたことで昨年度を上回る参加者となったが、講座によっては内容や定員等に関する周知が行き届かなかったことで受講を見送るケースが生じ、目標値の84%程度となった。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や地元企業と連携した講座開設に取り組んだことで、新たな展開が生まれ、目標達成の要因になっており、今後も地域を巻き込んだ取り組みが必要である。 ・地元の宿泊施設や飲食店とのコラボレーションによる村の食材を使った料理教室やワイン講座を企画したことで、地元新聞に取り上げられ、話題を集めたことが、参加者数を確保できた要因と考えるが、より多くの人に参加してもらうよう、認知度向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携する地元企業等の開拓を行うことで、講座内容の充実化を図る。 ・様々な媒体を活用した情報発信を行うことで、講座に対する興味・関心の拡大を図る。

今後の取り組み方針

・村観光協会や地域おこし協力隊と協力した地元飲食店等とのコラボ推進に取り組む。
 ・村HPやFacebookなどのSNSを活用した情報発信に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,039	6,039	4,831	1,208	0



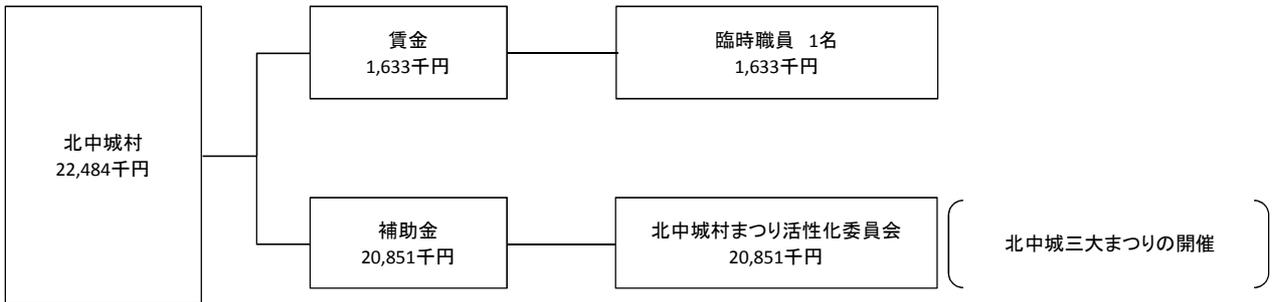
資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、施設の指定管理者であり、当該施設に熟知していることを勘案したうえで選定しており、妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目や使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	北中城まつり活性化事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-オ	
	担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	産業間連携の強化
事業内容	まつりを通した伝統芸能等の保存・継承及び地域活性化を図るため、「青年エイサー」、「北中城しおさいまつり」、「ひまわりin北中城」の開催支援を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(a) 当初予算額	19,141	18,817	18,817	21,241	24,141
	(b) 予算現額	19,427	19,460	18,000	21,241	24,141	
	(c) 増減額(b-a)	286	643	▲ 817	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	19,427	19,460	18,000	21,241	24,141	
	B. 執行済額	19,427	19,460	15,141	21,095	22,484	
	うち交付金充当額	15,542	15,568	12,113	16,876	17,986	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	84.1%	99.3%	93.1%	
予算の状況の説明	・不用額1,657千円については、臨時職員賃金の実績に伴う8千円の不用及び北中城まつり活性化委員会補助金の精算に伴う1,649千円の返戻によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	北中城三大まつりの開催支援を行う		目標 (開催支援)	()	()	()	
達成状況説明	青年エイサーまつり(8/20)、北中城しおさいまつり(10/14・15)、ひまわりin北中城(3/3~3/18)を開催し、計画通りの支援を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	エイサーまつり、しおさいまつり開催に係る芸能団体等育成	目標	()	(20団体)	()	()	()
		実績		22団体			
	ひまわりまつりでのひまわり植え付け面積	目標	()	(13,000㎡)	()	()	()
		実績		13,000㎡			
	まつり開催に係るチラシ等配布	目標	()	(19,500部)	()	()	()
		実績		19,500部			
	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等での掲載	目標	()	(1回)	()	()	()
		実績		7回			
	【H30成果目標】 ・青年エイサーまつり来場者数: 6,600人 ・しおさいまつり来場者数: 22,700人 ・ひまわりまつり来場者数: 48,300人		目標				6,600人 22,700人 48,300人
進捗状況説明	・各種団体へ積極的に参加を呼び掛けたことで、子ども達による伝統芸能の演舞や新たなエイサー団体が加わり、目標を達成することができた。 ・ひまわり畑地権者との交渉を早期に進めたことで、目標とする植付面積を達成することができた。 ・各まつりの開催周知を図るため、新聞紙面による広報やラジオ番組内での告知を積極的に行ったことで、目標数値を達成することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(青年エイサーまつり) ・エイサーを披露する青年会が新たに1団体加わったが、来場者数が横ばい状況にあるため、集客に向けた新たな取組みが必要である。 (北中城しおさいまつり) ・伝統芸能を披露する団体が増えており、北中城村の伝統文化をよりアピールできるプログラムを検討する必要がある。 (ひまわりin北中城) ・まつりは、地域の特産物等をPRできる貴重な機会であることから、より魅力的なまつりとなるよう内容を検討する必要がある。	(青年エイサーまつり) ・エイサー演舞だけでなく、他の伝統芸能も織り交ぜることで、まつり内容の充実化を図る。 (北中城しおさいまつり) ・県内他市町村では見られないようなプログラム構成を検討することで、北中城村独特のまつりを開催する。 (ひまわりin北中城) ・村内各種団体との連携を密にすることで、まつり内容の充実化を図る。
・青年エイサーまつりと北中城しおさいまつりを合同開催による村の伝統芸能等を中心としたプログラム構成を検討する。 ・ひまわり畑オーナー制度(仮称)を創設し、希望者に直接ひまわりの育成に携わってもらうことで、農家など多くの人々を巻き込んだ「ひまわりまつり」に取り組む。 ・より魅力的な「ひまわりin北中城」とするため、観光協会や商工会、青年会等を加えたプロジェクトチームの発足に取り組む。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
22,484	22,484	17,986	4,498	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助先のまつり活性化委員会は、村内各種団体で構成され、まつりを主催することから、妥当であったと判断する。 ・執行率が90%を超えており、適正規模であったと判断する。 ・まつり総事業費の10%を同委員会で負担しており、補助要綱に則り妥当であったと判断する。 ・費目・用途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

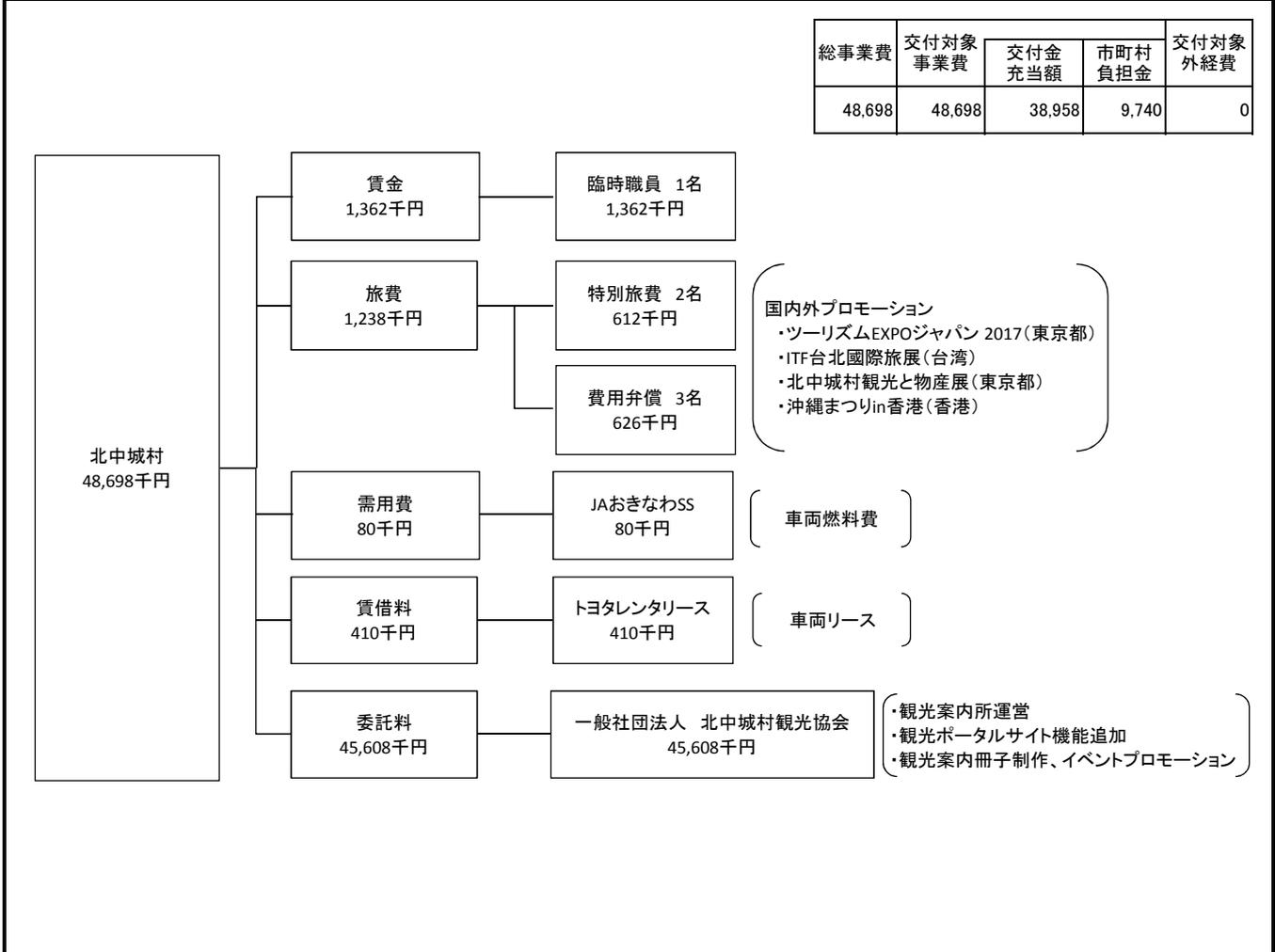
市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	観光誘客プロモーション事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	北中城村内への観光誘客を図るため、観光プロモーションや観光案内業務、観光ポータルサイトの運営を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,453	12,132	22,200	53,100	
		(b)予算現額	20,453	12,054	24,354	52,532	
		(c)増減額(b-a)	0	▲78	2,154	▲568	
		(d)繰越額	-	-	-	-	
		A.計(b+d)	20,453	12,054	24,354	52,532	
		B.執行済額	17,190	12,041	23,813	48,698	
		うち交付金充当額	13,752	9,632	19,050	38,958	
		次年度繰越額	0	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)	84.0%	99.9%	97.8%	92.7%	
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・568千円の補正減額については、県外プロモーション旅費の実績に伴うものである。 ・3,834千円の不用額の主な理由については、臨時職員賃金の勤務実績に伴う384千円、観光誘客プロモーション委託料の精算に伴う3,359千円によるものである。 						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	観光案内業務の実施(多言語観光案内所)	目標	(観光案内所事業計画の検討)	(業務開始)	(3人)	(実施)	
		実績	観光案内所事業計画の検討	業務開始	3人	実施	
	観光多言語ポータルサイトの運用・機能追加	目標	()	()	(製作・運用開始)	(機能追加)	
		実績			製作・運用開始	機能追加	
	観光多言語案内冊子等製作配布	目標	()	()	(30,000部)	(60,000部)	
		実績			30,000部	97,100部	
	観光イベントでのプロモーション	目標	()	(1回)	(1回)	(国内:2回 国外:2回)	
		実績		2回	2回	国内:2回 国外:2回	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語による観光案内業務を通年を通して実施できた。 ・ポータルサイトへの記事の追加及びスタンプラリー機能の追加を行った。 ・観光案内冊子を日本語、英語、韓国語、中国語(簡体・繁体)の5ヶ国語で製作し、クルーズ船等で来沖するインバウンドに対し配布を行った。 ・東京(2回)、台湾、香港において、北中城村のブースを設置し、プロモーション活動を実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	観光案内所利用者数	目標	()	(7,500人)	(20,000人)	(24,000人)	()
		実績		31,263人	25,443人	29,506人	
	観光ポータルサイト利用者数	目標	()	()	()	(120,000pv)	()
		実績				255,576pv	
	観光案内冊子配布数	目標	()	()	()	(60,000部)	()
		実績				97,100部	
	発地での観光イベントによる直接PR数	目標	()	()	()	(6,000人)	()
		実績				7,000人	
	北中城村への来村者数	目標	()	()	()	(把握できる環境を整える)	()
実績					把握できる環境を整える		
[H30成果目標] 村内主要観光施設(中城城跡・中村家住宅)来場者数:158,000人	目標					158,000人	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・村に関する企画展等を開催したことで、成果目標を達成することができた。 ・ポータルサイトでは、スタンプラリー機能を追加したことで、サイト利用者の興味を引く内容となり、成果目標を達成することができた。 ・観光案内冊子を多言語化したことにより、クルーズ船等で訪れるインバウンドを中心に配布することができた。 ・イベントプロモーションでは、ノベルティー配布や沖縄の伝統衣装によるPR活動等を行ったことで、目標値を上回る来客となった。 ・村内観光スポット等にWi-Fiを整備したことで、観光客の流れを把握できる環境が整備できた。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(観光案内所) ・案内所では、企画展等による北中城村のPRや多言語案内を行うことで、昨年度と比較して16%増となったが、インバウンドへの対応を強化することで、更なる利用者増加に取り組む必要がある。 (観光ポータルサイト) ・情報発信の起点となるため、Wi-Fiと連携した機能強化が必要である。 (観光プロモーション) ・限られた回数でのプロモーション活動の中で、重点拠点と新規開拓をバランスよく展開する必要がある。	(観光案内所) ・英語、韓国語、中国語のほか、どの言語にニーズがあるかを検討することで、案内強化を図る。 (観光ポータルサイト) ・サイトの機能強化と併せてWi-Fiとの連携を検討することで、ポータルサイトの運用効率化を図る。 (観光プロモーション) ・沖縄県や沖縄コンベンションビューローと連携することで、効果的なプロモーション活動の展開を図る。

今後の取り組み方針

(観光案内所)
 ・多言語案内を継続するとともに、他の言語についての需要調査を行い、多言語案内冊子の機能強化に取り組む。
 (観光ポータルサイト)
 ・サイトの効率的な運用を図るため、観光情報インフラ整備推進事業において機能強化に取り組む。
 (観光プロモーション)
 ・引き続き、県や関係機関と連携し、国内外でのプロモーション活動を展開することで、北中城村の知名度アップに取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、村内事業所等との連携が不可欠であり公共性が求められることから、村観光協会が妥当であったと判断する。 ・執行率が90%を超えており、適正規模であったと判断する。 ・費目・用途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	アワセゴルフ場周辺まちづくり整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度 平成27～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 Ⅲ-1-(1)

事業内容
米軍より返還されたアワセゴルフ場跡地を含む周辺地区を観光交流拠点として整備するため、観光客受入れ時の課題となっている駐車場整備について調査・検討を行う。

効果発現年度
 当年度 後年度(32年度以降)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	10,000	10,000	10,000		
	(b) 予算現額	10,000	10,000	8,468		
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 1,532		
	(d) 繰越額	—	—	—		
	A. 計(b+d)	10,000	10,000	8,468		
	B. 執行済額	9,828	9,931	7,943		
	うち交付金充当額	7,862	7,944	6,354		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	98.3%	99.3%	93.8%		
予算の状況の説明	・1,532千円の予算減額については、設計価格設定時の見積比較結果によるものである。 ・525千円の不用額については、プロポーザル実施時の執行残によるものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
		アワセゴルフ場周辺まちづくり勉強会の実施	目標 (2回)	(2回)	(2回)
	実績	2回	2回	2回	
	目標 (影響調査の実施)	(影響調査の実施)	(最適地の検討)	()	
	実績	影響調査の実施	影響調査の実施	最適地の検討実施	
達成状況説明	・アワセゴルフ場周辺地区の整備手法に係る勉強会として、検討会を計画通り2回実施することができた。 ・上記検討会において、駐車場の最適地について検討することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(32年度)	
		目標	()	(課題の把握)	(将来構想図の整理)	(整備手法の作成)	()
		実績		課題の把握	将来構想図の整理完了	整備手法の作成完了	
	【H32以降】策定する基本計画において成果を設定する。	目標				基本構想の策定	
進捗状況説明	・駐車場最適地として選定した5候補地における事業コストの簡易検証、課題の取りまとめを行い、選定した各候補地における立地条件、立体駐車場整備の有無、土地取得、運営コスト等の整備手法に関する方向性を決定することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会において、駐車場の整備に必要な事業コストや運営に必要な収入を試算したことで、候補地の整理及び整備方針の決定などの目標を達せることができた。 ・アワセゴルフ場周辺地区に隣接する自治体では、大きなイベントや施設整備が検討されており、それに伴う本地区への来訪者の流入が見込めることから、本事業の方向性について、関係機関との検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部圏域における観光交流拠点となるよう、アワセゴルフ場周辺地区と隣接する自治体との連携を図る。

今後の取り組み方針

・本事業の事業化に向けた具体的計画を策定するため、関係機関及び自治体との協議に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
7,943	7,943	6,354	1,589	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。 ・執行率が90%を超えており、適正な規模であったと判断する。 ・費目・使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	公営墓地整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア
担当部署名	住民生活課	事業実施(予定)年度	平成24~32年度	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容
 沖縄独特の墓地散在化の抑制と整理、景観的な住環境の改善を図るため、公営墓地を整備する。

効果発現年度
 当年度 後年度(33年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額	42,615	78,716	113,463	28,637	50,922
	(b) 予算現額	42,615	78,716	82,096	28,594	17,161
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 31,367	▲ 43	▲ 33,761
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)	42,615	78,716	82,096	28,594	17,161
	B. 執行済額	40,981	43,560	80,217	15,288	5,141
	うち交付金充当額	32,785	34,848	64,173	12,230	4,113
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	96.2%	55.3%	97.7%	53.5%	30.0%
	予算の状況の説明	・当初、公営墓地進入路整備工事を予定していたが、施工箇所の用地取得ができず、工事を実施することができなかったため、33,671千円を補正減額した。 ・不用額12,020千円については、用地取得の不調によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
	用地取得	目標 (用地取得の実施) 実績 4,349.72㎡の用地取得の完了	(7,722.27㎡)	(1,972㎡)	(1,471.45㎡)
達成状況説明	当初、4筆(1,471.45㎡)の用地取得を計画していたが、地権者との交渉を重ねた結果、1筆(138.96㎡)となった。	目標 ()	()	()	()
	実績				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(33年度)
		用地取得の完了	()	(84%)	(100%)	(100%)
	実績		84.65%	89.74%	90.71%	
進捗状況説明	【H33成果目標】 公営墓地利用世帯:35世帯	目標				35世帯
相続手続きが難航したことや地権者の同意が得られない等の不測の事態により、一部の用地が取得できなかったものの、全体面積の90%以上を取得しており、成果目標については概ね達成することができた。						

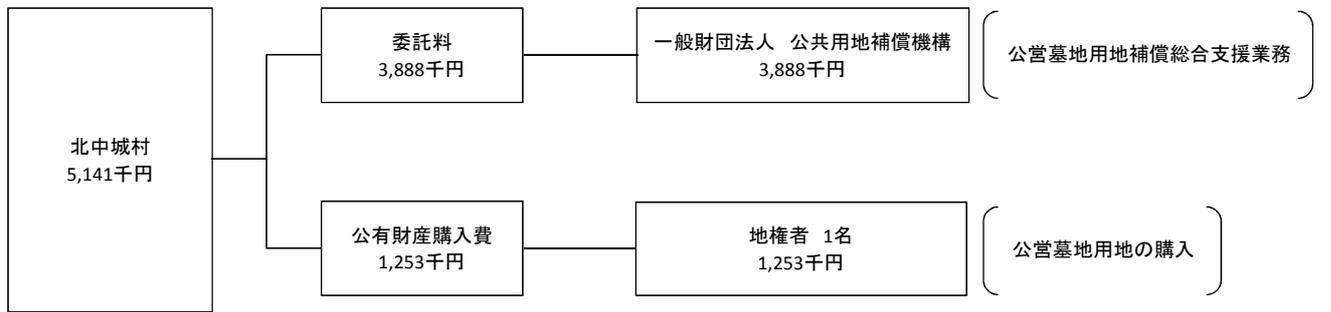
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・整備にあたっては、用地取得は必要不可欠だが、一部地権者の同意が得られないため、当該人の対応について検討する必要がある。</p>	<p>・地権者交渉を継続して行くとともに、不調となった場合についても併せて検討することで、公営墓地整備の推進を図る。</p>

今後の取り組み方針

・引き続き、地権者との交渉を重ね未取得用地の確保に取組むとともに、取得に至らなかった場合の設計変更の検討を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,141	5,141	4,113	1,028	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者は、プロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考える。</p> <p>・予算規模については、事前に見積りを取るなど、内容を確認しており妥当であったと考える。</p> <p>・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、事業目的に即し適正であったと判断する。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥	リュウキュウマツ保全事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成28～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				花と緑あふれる県土の形成
				Ⅲ-1-(1)

事業内容
北中城村の景観・美観を創出・継承するため、県木であるリュウキュウマツの計画的な薬液樹幹注入及び伐倒焼却処分を実施する。

効果発現年度
 当年度 後年度(31年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	5,867	5,940			
	(b) 予算現額	5,867	5,940			
	(c) 増減額(b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	—	—			
	A. 計(b+d)	5,867	5,940			
	B. 執行済額	5,829	5,940			
	うち交付金充当額	4,663	4,752			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	99.4%	100.0%			
予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
薬剤樹幹注入の実施	目標	(400本)	(実施)	()	()
	実績	1,564本	実施		
伐倒処理の実施	目標	(50本)	(実施)	()	()
	実績	0本	実施		
達成状況説明	昨年度に作成した分布マップに基づき、薬剤樹幹注入及び赤枯れ松の伐倒を実施することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(31年度)
			薬剤樹幹注入の完了	目標	(400本)	(1,000本)
	実績		1,564本	1,654本		
伐倒処理の完了	目標	()	(50本)	(3本)	()	()
	実績		0本	1本		
【H31成果目標】	予防達成率を90%とする。	目標				90%

進捗状況説明
・松くい虫被害が拡大傾向にあることを考慮し、健全木への樹幹注入を優先して行ったことで、成果目標を達成することができた。
・当初、3本の伐倒を予定していたが、2本の対象木が作業困難な場所であることが判明したため1本のみとなった。

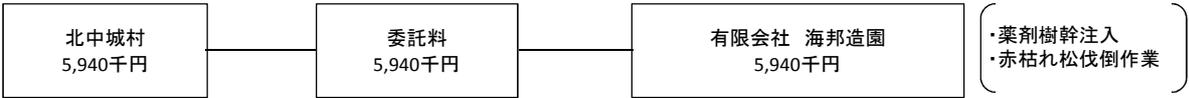
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・樹幹注入を行った松については、松くい虫被害は確認されていないため、本村の景観・美観の保全に寄与しているが、未実施箇所については松くい虫被害が拡大している恐れがあるため、実態を把握する必要がある。 ・枯損木の伐倒について、優先箇所を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、健全木への薬液樹幹注入を実施することで、景観・美観の保全に努める。 ・松くい虫の被害状況の把握に努める。 ・計画的な伐倒を行い、景観保全を図る。

今後の取り組み方針

- ・薬液樹幹注入未実施の健全木の被害状況を調査し、分布マップの更新に取り組む。
- ・対策未実施の健全木への薬液樹幹注入に取り組む。
- ・村道等の枯損木の伐倒を優先的に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,940	5,940	4,752	1,188	0



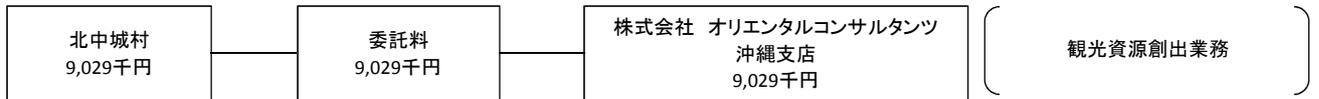
資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目や用途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	観光資源創出事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成28～32年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	多様化する観光ニーズに対応するため、新たな観光資源を創出するための調査・検討を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,072	10,079			
		(b) 予算現額	10,069	9,029			
		(c) 増減額(b-a)	▲3	▲1,050			
		(d) 繰越額	—	—			
	A. 計(b+d)		10,069	9,029			
	B. 執行済額		10,060	9,029			
	うち交付金充当額		8,048	7,223			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.9%	100.0%			
予算の状況の説明		・委託料の確定に伴い、1,050千円を減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	活用促進が可能な観光資源の整理	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	資源活用推進に向けた方策検討	目標	(検討の実施)	()	()	()	
		実績	検討の実施				
	商品化に向けた検討	目標	(検討の実施)	()	()	()	
		実績	検討の実施				
	モニター実証の実施	目標	(実証実施)	()	()	()	
		実績	実証の継続検討				
資源の活用促進に向けた勉強会の開催	目標	(開催)	()	()	()		
	実績	開催					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・活用促進が可能な観光資源の整理として、本村の海洋資源の活用や既存観光資源との連携について整理することができた。 ・資源活用推進に向けた検討として、広域連携による新たな取組みについて検討を行うことができた。 ・観光資源の商品化に向け、必要な施設整備や中長期計画について検討することができた。 ・モニター実証の実施については、施設整備等の課題もあることから、継続的に検討を行うこととし、実施には至らなかった。 ・民間事業者等を交えた勉強会を開催し、本村の観光の現状や今後の展望について話し合うことができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	観光資源の整理及び活用に向けた方策検討	目標	()	(基礎調査の完了)	(検討実施)	()	()
		実績		基礎調査の完了	検討実施		
	観光ツアーのブラッシュアップ及び商品化	目標	()	()	(実施)	()	()
		実績			実施		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の整理及び活用に向けた方策検討として、本村の海洋資源と既存観光資源との連携によるブルーツーリズムプログラムの検討を行い、「北中城村マリンビジョン」を策定することで、成果目標を達成することができた。 ・「北中城村マリンビジョン」を踏まえ、本村におけるプログラム展開イメージを検討し、需要見込みや中長期収支計画など、観光ツアーのブラッシュアップ及び商品化に向けた検討を実施することができた。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな観光商品となるブルーーツーリズムプログラムの早期商品化を実現する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県などの関係機関との協議を進めることで、ブルーーツーリズムプログラムの実現化を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーーツーリズムプログラムの実現に向け、関係機関への「北中城村マリンビジョン」の周知、村観光協会や村内の観光関連事業者との情報共有に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
9,029	9,029	7,223	1,806	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 ・不用額がないことから、適正な規模であったと考える。 ・費目や用途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧	荻道・大城湧水群周辺環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	「平成の名水百選」に選ばれた荻道・大城湧水群を新たな観光資源として活用するため、散策路基本計画の策定及び湧水保全調査、カー(井戸)の改修を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(34年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,000	17,162	11,000	10,174	11,190
		(b) 予算現額	16,000	17,162	8,000	16,309	35,930
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 3,000	6,135	24,740
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		16,000	17,162	8,000	16,309	35,930
	B. 執行済額		14,910	13,932	7,182	16,308	35,757
	うち交付金充当額		11,928	11,145	5,745	13,046	28,605
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.2%	81.2%	89.8%	100.0%	99.5%
予算の状況の説明		当初、湧水保全調査及び散策路基本計画の策定のみを予定していたが、湧水群のひとつである大城イリヌカーの改修を追加したため、24,740千円を増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	雨水浸透施設モデル住宅モニタリングの実施	目標	(湧水保全地区の湧水浸透方法の検討)	(公共:1件 住宅:5件)	(公共:1件 住宅:4件)	(公共:1件 住宅:4件)	
		実績	湧水保全地区の実設計の検討	公共:0件 住宅:4件	公共:1件 住宅:4件	公共:1件 住宅:4件	
	観光・健康散策路整備基本設計の検討	目標	()	()	(基本計画の見直し検討)	(基本設計の検討)	
		実績			基本計画の見直し検討	基本設計の検討	
大城イリヌカー改修工事の実施	目標	()	(補修工法検討調査)	(改修実施設計の策定)	(改修工事の実施)		
	実績		補修工法検討調査の実施	改修実施設計の策定	改修工事の実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度に設置した雨水浸透施設の機能について、継続調査を実施することができた。 ・昨年度に見直した基本計画に基づき、基本設計を検討することができた。 ・崩落が確認されている大城イリヌカーについて、昨年度に作成した実施設計に基づき改修工事を実施することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(34年度)
	観光・健康散策路整備基本設計の策定	目標	()	()	(基本計画の見直し)	(基本設計の策定)	()
		実績			基本計画の見直し完了	基本設計の策定	
	大城イリヌカー改修工事の完了	目標	()	(補修工法の決定)	(実施設計の策定)	(工事の完了)	()
		実績		基本設計の策定	実施設計の策定	工事の完了	
【H34成果目標】 散策路整備により満足度が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査により、本事業のあり方を検証する。		目標					80%以上
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画で策定した散策ルートについて、用地境界や現況等に関する詳細な検討を行ったことで、基本設計を策定することができた。 ・大城イリヌカー改修工事は、年度途中からの取組みであったが、実施設計に基づき着手したことで、年度内に完了することができた。 						

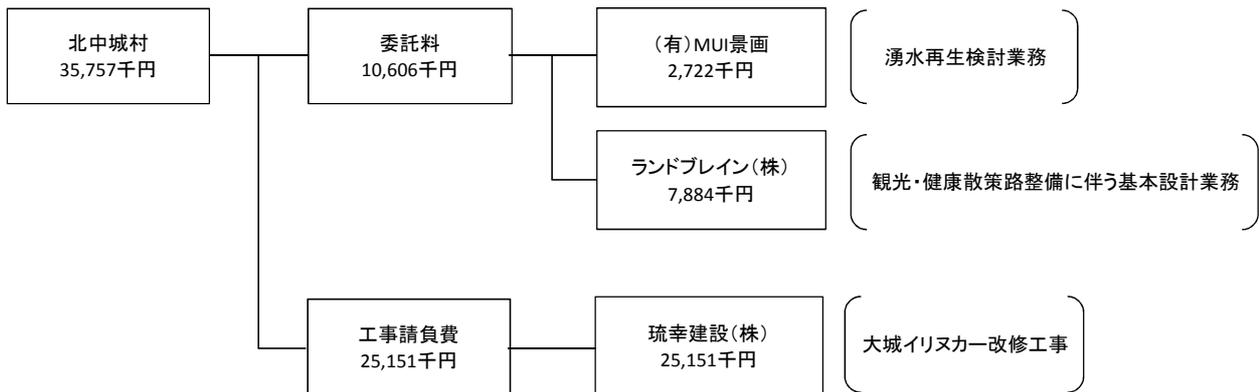
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 散策路の整備については、用地境界や現況等の詳細調査を行ったことで基本的な設計ができたが、今後は実現可能なものとするため、より具体的な検討が必要である。 崩落が確認された大城イリヌカーの改修が完了したことで、新たな観光資源としての活用が期待されるが、誘客を促すための取組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の意見を集約するなど、より具体的な検討を進めることで、実現可能な散策路整備を図る。 大城イリヌカーを散策ルートに組み込むことで、効果的な誘客を促す。

今後の取り組み方針

- 地域説明会を通して住民の意見集約を図り、散策路整備実施設計の策定に取り組む。
- 散策路整備実施設計において、大城イリヌカーへ誘導する案内サイン等の設置を盛り込むことで、誘客促進に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
35,757	35,757	28,605	7,152	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託及び工事業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 不用額が事業費の5%以内であることから、予算規模は適正であったと考える。 費用・使途は、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑨	ライカム交差点交流オアシス整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度 平成28～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 Ⅲ-1-(1)

事業内容
北中城村の魅力を発信するような景観形成を図るため、米軍により返還されたアワセゴルフ場地区の玄関口となるライカム交差点の道路残地を活用した交流スペースの整備を行う。

効果発現年度
 当年度 後年度(32年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額	3,134	6,550			
	(b) 予算現額	3,024	6,232			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 110	▲ 318			
	(d) 繰越額	-	-			
	A. 計 (b+d)	3,024	6,232			
	B. 執行済額	3,024	6,232			
	うち交付金充当額	2,419	4,985			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	100.0%			
	予算の状況の説明	・318千円の予算減額は、入札残によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
		実施設計の検討 目標 (整備基本計画の検討) (実施設計の検討) () () 実績 整備基本計画の検討 実施設計の検討			
達成状況説明	過年度に策定した基本計画の整備案の絞り込みを行うことで、実施設計の検討を実施することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(32年度)	
		実施設計の策定 目標 () (整備基本計画の策定) (実施設計の策定) () () 実績 / 整備基本計画の策定 実施設計の策定 /					
		【H32成果目標】 地域交流イベント等への参加者に対し、魅力的な景観形成が図られたか(80%以上)を含め、アンケート調査により、当該事業のあり方について検証する。	目標				80%以上
進捗状況説明	過年度に策定した基本設計の整備案を基に、オブジェのデザインや配置等の検討を沖縄県立芸術大学との連携により絞り込みを行うことで、成果目標である実施設計を策定することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・オブジェのデザイン等の検討を沖縄県立芸術大学と連携して行うことで、専門の見地からの絞り込みが可能となり、目標を達成することができた。 ・計画対象地が県有地であるため、整備にあたっては沖縄県との協議が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備に伴う協議及び整備後の維持管理について、沖縄県との調整を行うことで、円滑な整備を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県中部土木事務所と計画対象地の維持管理等に関する管理協定を締結し、オブジェの整備に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,232	6,232	4,985	1,247	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目や用途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-10	観光地アクセス道路美化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成29~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	観光地沖縄としての魅力向上を図るため、観光客が訪れる観光地へのアクセス道路の美化作業を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,400				
		(b)予算現額	10,368				
		(c)増減額(b-a)	▲1,032				
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	10,368				
	B.執行済額		10,368				
	うち交付金充当額		8,294				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		1,032千円の補正減額については、委託実績によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	美化作業の実施 ・寄植剪定 1,100㎡×2回	目標	(1,100㎡×2回)	()	()	()	
		実績	905㎡×2回				
	美化作業の実施 ・機械除草 6,970㎡×2回	目標	(6,970㎡×2回)	()	()	()	
		実績	5,551㎡×2回				
	美化作業の実施 ・抜根除草 1,100㎡×4回	目標	(1,100㎡×4回)	()	()	()	
		実績	905㎡×2回				
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・電線地中化に伴う国道沿線の工事と美化作業実施予定箇所が一部重なったため、寄植剪定及び抜根除草面積が905㎡に、機械除草面積が5,551㎡に減少した。 ・抜根除草において、当初4回を計画していたが、対象面積が減少し作業を集中的に行ったことで、2回の実施で対応することができた。 					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度
年2回の除草作業を行い、沖縄らしい景観を年間を通して保つことで、観光客を迎え入れる体制を整える		目標	()	(受入体制の整備)	()	()	()
		実績		受入体制の整備			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明		年間を通して、実施箇所における苦情がなかったことから、沖縄らしい景観が保たれ、観光客を迎え入れる体制が整い、目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・南部国道事務所と連携し、村でも年2回の美化作業に取り組んだことで、年間を通して沖縄らしい景観が保たれた。 ・亜熱帯気候という沖縄独特の気候の中で、美化作業を行う頻度も高くなることから、効果的な作業を実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・除草作業のマニュアル化などを検討し、除草作業の効率化を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県の除草剤利用マニュアルの導入について検討し、美化作業の効率化に取り組む。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	10,368	10,368	8,294	2,074	0
<pre> graph LR A[北中城村 10,368千円] --> B[委託料 10,368千円] B --> C[株式会社グリーンテックトータル 10,368千円] subgraph D [観光地アクセス道路美化業務] C end </pre>					

資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、見積りを徴取し最低価格の事業者を選定しており妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑪	地域発信型映画制作事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成29～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	北中城村の文化や伝統を村に住む人や風土を国内外にPRするため、地域発信型映画を制作する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,648				
		(b) 予算現額	11,448				
		(c) 増減額(b-a)	800				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	11,448				
	B. 執行済額		11,223				
	うち交付金充当額		8,978				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		98.0%				
予算の状況の説明		・委託業務に、当初予定していなかった映画製作支援業務を追加したことで、800千円を増額補正した。 ・不用額225千円については、委託業務の精算に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	ロケ地として村内スポットを20箇所使用する	目標	(20箇所)	()	()	()	
		実績	20箇所				
	文化・伝統芸能団体を10団体起用する	目標	(10団体)	()	()	()	
		実績	10団体				
達成状況説明	・北中城村のロケーションの素晴らしさを盛り込むため、当初の予定通り村内スポット20箇所をロケ地として撮影することができた。 ・北中城村に住む人々や風土の魅力を発信するため、文化・伝統芸能活動を行う団体を計画通り起用することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	映画の制作	目標	()	(1本)	()	()	()
		実績		1本			
	【H30成果目標】 村内主要観光施設(中城城跡・中村家住宅)来場者数:158,000人		目標				158,000人
	進捗状況説明	・村内20箇所での撮影及び文化・伝統芸能活動を行う10団体を起用できたことで、地域発信型映画として「きたなかスケッチ」を完成することができた。					

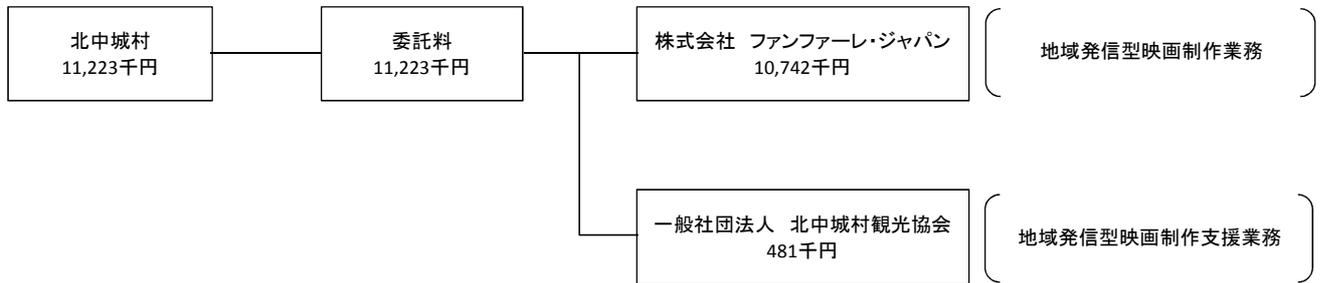
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・制作した映画を広く発信するため、その手法について検討する必要がある。</p>	<p>・村観光協会内のフィルムコミッションと連携することで、本事業で制作した映画を観光プロモーションツールとして活用を図る。</p>

今後の取り組み方針

・映画の撮影スポットとなったカフェ等での試写会や出演者のトークイベント等を開催し、北中城村への誘客促進に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
11,223	11,223	8,978	2,245	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者は、プロポーザル方式により選定しており妥当であったと考える。</p> <p>・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。</p> <p>・費目や用途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-12	観光情報インフラ整備推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成28~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	北中城村の観光基盤の強化に向け、公衆無線LANサービスの提供を行うとともに、サービス利活用データを収集・分析することにより、村内の観光動向指数を調査・分析できる基盤を整える。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	18,023	24,728			
		(b) 予算現額	18,023	23,739			
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 989			
		(d) 繰越額	—	—			
	A. 計(b+d)		18,023	23,739			
	B. 執行済額		17,659	23,684			
	うち交付金充当額		14,127	18,947			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		98.0%	99.8%			
予算の状況の説明		委託金額の確定に伴い、989千円を補正減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	ビッグデータ分析(村内分析・比較)の実施	目標	(分析実施)	(分析実施)	()	()	
		実績	分析実施	分析実施			
	Wi-Fi AP設置による実証実験の実施	目標	(20AP設置)	(35AP設置)	()	()	
		実績	17AP設置	35AP設置			
	インフラ整備推進委員会運営	目標	(4回)	(運営)	()	()	
実績		2回	運営				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・村内の観光スポットや公共等施設にWi-Fiアクセスポイントを設置したことで、目標値を達成することができた。 ・設置したWi-Fiアクセスポイントから得られるビッグデータを用いて、分析を実施することができた。 ・インフラ整備推進委員会において、分析したビッグデータを活用し、今後の展望について意見交換を実施することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	ビッグデータ分析実施の完了	目標	()	(分析完了)	(分析完了)	()	()
		実績		分析完了	分析完了		
	Wi-Fi AP設置による実証実験実施の完了	目標	()	(完了)	(完了)	()	()
		実績		完了	完了		
	インフラ整備推進委員会の開催	目標	()	()	(5回)	()	()
		実績			4回		
【H30成果目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi認証ベース利用数:23,400件 ・利便性が確保されたか(80%以上)を含め、ポータルサイトを韓国語利用した外国人に対するアンケートで、本事業のあり方を検証する。 		目標				23,400件 80%以上
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度に設置したWi-Fiアクセスポイントも含め村内45ヶ所から得られる観光客の属性や滞在分析、流動分析を行い、実施実験を完了することができた。 ・実証実験によって得た結果を踏まえ、観光客の動向や趣向を分析することで、ビッグデータを得ることができた。 ・インフラ整備推進委員会は当初、5回の開催を予定していたが、ビッグデータ分析等に時間を要したため4回の開催となったが、データ等を活用した今後の展望について意見交換ができており、成果目標を概ね達成することができた。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> より多くのデータを取得するため、「北中城村Free Wi-Fi」の普及啓発を図り、利用促進に繋げる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の動向分析をWi-Fi設置店舗等と情報を共有することで、観光客の更なる満足度向上を図る。

今後の取り組み方針

- Wi-Fiアクセスポイントから得られるデータを活用し、国内観光分析やインバウンド観光分析に取り組む。
- 季節変動や移動実績を基に、Web広告やスマートフォンアプリ等を活用したターゲティング広告に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
23,684	23,684	18,947	4,737	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業者は、村内店舗等との連携が不可欠であり公共性が求められることから、妥当であると判断する。 不用額は5%以内であり、適正な規模であると判断する。 Wi-Fi設置店舗等については、回線費を店舗等が負担しており、負担関係は妥当であると判断する。 費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-13	観光危機管理計画策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成29~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	北中城村の観光産業の持続的発展を図るため、災害や事件等の発生による観光客等や観光産業への被害を軽減できるよう観光危機管理計画を策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,362				
		(b)予算現額	10,768				
		(c)増減額(b-a)	▲594				
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	10,768				
	B.執行済額		10,768				
	うち交付金充当額		8,614				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		・委託金額の確定に伴い、594千円を減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	観光危機管理計画策定の検討	目標	(検討実施)	()	()	()	
		実績	検討実施				
	庁内委員会の開催	目標	(開催)	()	()	()	
		実績	開催				
	観光危機管理対応に関する勉強会の開催	目標	(勉強会の開催)	()	()	()	
		実績	勉強会の開催				
	観光危機管理計画対応訓練の実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本村の観光状況の把握や起こりうる危機の想定等の検討を実施することができた。 ・庁内における共通理解と情報共有を深めるため、庁内委員会を2回実施することができた。 ・観光危機管理対応についての理解を深めるため、観光関連施設担当者との勉強会を3回実施することができた。 ・計画と併せて策定した観光危機管理マニュアルに応じた図上訓練を1回実施することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	観光危機管理計画の策定	目標	()	(策定)	()	()	()
		実績		策定			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本村で想定される観光危機に対応するための組織体制の構築や対応マニュアルを整備することで、北中城村版の危機管理計画を策定することができた。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 行政や村観光協会、観光関連施設が連携し、策定した計画やマニュアルに沿った対応が実践できるよう、周知等に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な訓練を通して、組織的に対応できる体制の構築及び機能的なマニュアルの見直しを図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 今回策定した計画に基づき、村内観光関連事業による実践訓練を行うことで、組織的かつ計画的な観光危機管理対策の推進及びマニュアル等の改善に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
10,768	10,768	8,614	2,154	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 不用額がないことから、適正な規模であったと考える。 費目や用途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	アワセゴルフ場地区歴史・まちづくり映像保存事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア	
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組	
事業内容	駐留軍用地「アワセゴルフ場」の返還合意から土地利用に至るまでの過程を歴史文化として継承するため、映像記録・編集を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(33年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		(a)当初予算額	940	940	1,020	1,000	1,100
		(b)予算現額	940	940	1,020	1,000	1,050
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	▲50
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
	A.計(b+d)	940	940	1,020	1,000	1,050	
	B.執行済額	940	940	992	996	1,050	
	うち交付金充当額	751	751	794	796	839	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	97.3%	99.6%	100.0%	
予算の状況の説明		50千円の補正減額は委託実績に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	住宅地造成やインフラ整備等のまちづくりの変化を記録映像として残す。(記録映像の撮影時間:3時間)	目標	(3時間)	(3時間)	(3時間)	(3時間)	
		実績	3時間	3時間	3時間	3時間	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	アワセゴルフ場跡地の開発状況の記録撮影や戦前から現在に至る当該地区の変化についてインタビュー形式で行うなど、3時間にわたる記録映像を撮影することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(33年度)
	全体の記録映像の作成進捗率	目標	()	(60%)	(70%)	(86%)	()
		実績		60%	70%	67%	
	【H33成果目標】 村HP年間アクセス数:660回		目標				660回
	進捗状況説明	当初、成果指標を平成30年度までの記録映像進捗率(86%)としていたが、アワセ土地区画整理事業が平成31年度まで続くことで全体ボリュームが増加したことから67%となった。					

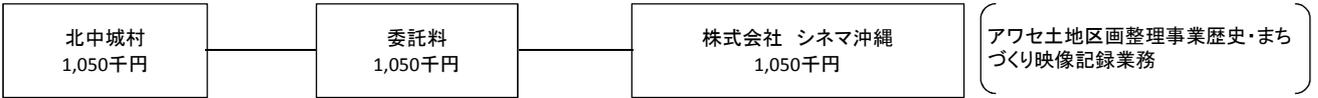
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの、「まちづくり」の記録として、主に基盤整備等の過程を記録してきたが、開発によって懸念される自然環境の保全等に対する取り組みも継承する必要がある。 ・駐留軍用地跡地の開発だけでなく、活用についても記録する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模開発工事を進めていく中で、自然環境への配慮がどのように行われてきたかを記録することで、適正な駐留軍用地跡地開発の継承を図る。 ・整備が完了した区域の活用現状について記録を残すことで、駐留軍用地跡地の開発から利活用に至るまでの内容の充実化を図る。

今後の取り組み方針

- ・大規模な開発を行うにあたって自然環境等へ配慮した取り組みについての記録を行う。
- ・商業エリア等で行われるイベントや訪れる観光客の現状についての記録を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
1,050	1,050	839	211	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、実績等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目や用途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

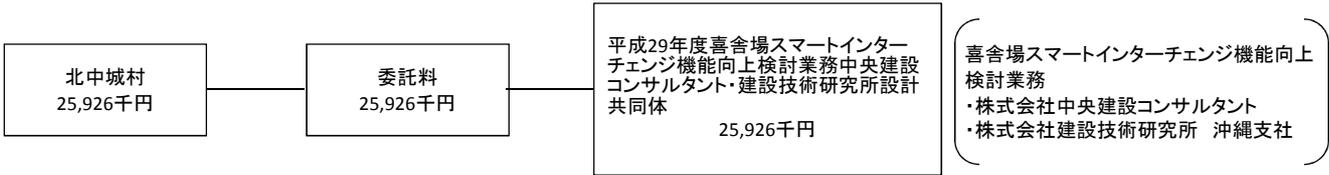
市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	喜舎場ハウジング地区跡地利用推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組		
事業内容	<p>駐留軍用地キャンプ瑞慶覧「喜舎場ハウジング地区」内における跡地利用を推進するため、現在、那覇向け入口しかない喜舎場スマートICをフルインター化にするため、インターチェンジのレイアウト案の詳細検討を行う。</p>						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,000	5,000	15,056	21,000	25,927
		(b) 予算現額	16,000	5,000	22,076	21,319	25,927
		(c) 増減額(b-a)	0	0	7,020	319	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		16,000	5,000	22,076	21,319	25,927
	B. 執行済額		12,106	4,590	22,032	21,319	25,926
	うち交付金充当額		9,685	3,672	17,625	17,055	20,741
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		75.7%	91.8%	99.8%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	喜舎場SICレイアウト(案)の詳細検討	目標	(フルインター化に向けた検討・調査)	(レイアウト案作成)	(レイアウト案の検討)	(レイアウト案の詳細検討)	
		実績	フルインター化に向けた検討・調査	レイアウト案作成	レイアウト案の検討	レイアウト案の詳細検討	
	喜舎場SIC作業部会の開催	目標	()	()	()	(開催)	
		実績				開催	
喜舎場ハウジング地区跡地利用(案)の検討	目標	()	()	()	(跡地利用(案)の検討)		
	実績				跡地利用(案)の検討		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度に検討したレイアウト案に係る構造上の課題を解消するため、より詳細な検討を行った。 ・作業部会の開催により、関係機関との情報共有や調整が図られた。 ・フルインター化により生じるインターチェンジ残地部分の跡地利用について、各種計画との整合性や先進事例調査、活用ニーズについてのアンケート等により検討することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	喜舎場SICレイアウト(案)概略図面の完成	目標	()	(整備に係る課題の把握)	(レイアウト案の選定完了)	(概略図面の完成)	()
		実績		整備に係る課題の把握	レイアウト案の選定完了	概略図面の完成	
	喜舎場SIC作業部会の開催	目標	()	()	()	(2回)	()
		実績				1回	
	喜舎場ハウジング地区跡地利用(案)の策定完了	目標	()	()	()	(策定完了)	()
実績					策定完了		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・地形図を活用し土地の形状を踏まえ、既存レイアウト案の構造上の課題にアプローチしたことでより詳細な検討が行われ、概略図面を完成することができた。 ・当初、2回の作業部会を予定していたが、レイアウト案の詳細検討を時間をかけて取り組む必要があったため、1回の開催にとどまった。 ・フルインター化に伴う残地部分に集約する必要な機能について検討を重ねることで、跡地利用のコンセプトをまとめることができた。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> レイアウト案の構造上の課題解消に向けた詳細検討を行ったことで、より適用性の高い概略図面を完成させることができ、喜舎場ハウジング地区返還後の早期着手に向け、必要な事前準備を完了することができた。 喜舎場SIC作業部会を開催することで、沖縄総合事務局、南部国道事務所、沖縄県、NEXCO並びに北中城村の間で概略図の情報共有がなされ、返還後の跡地利用推進の円滑化が図られた。 フルインターの概略図の完成により、構造上発生する残地部分の活用方法について検討を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 喜舎場ハウジング地区の跡地利用を推進するため、フルインター化に伴う残地部分の効果的な活用策について検討を深める。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> フルインター化に伴う残地部分の有効な整備手法について検討を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
25,926	25,926	20,741	5,185	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業者は、公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。 不用額が事業費の5%以内であることから、予算規模は適正であったと考える。 費用・使途は、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	早期の事業着手に向けた取組
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-8

事業内容
 キャンプ瑞慶覧ロウワープラザ地区の跡地利用を推進するため、これまで積み立てた基金を活用し公有地の先行取得を行う。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額	57,000	118,593	117,400	3,000	3,372
	(b) 予算現額	57,000	118,593	236,614	2,894	3,702
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	119,214	▲ 106	330
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)	57,000	118,593	236,614	2,894	3,702
	B. 執行済額	57,000	117,428	236,604	2,688	3,701
	うち交付金充当額	45,600	93,942	189,283	2,150	2,960
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	99.0%	99.9%	92.9%	100.0%
	予算の状況の説明	・330千円の増額補正については、買取協議申出者が当初の想定人数を上回ったため、先行取得支援業務委託料を増額したことによるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
	ロウワープラザ地区の買取実施 目標 () 実績 6,606㎡	(4,500㎡)	(2,894㎡)	(2,679㎡)	()
目標 () 実績 ()	()	()	()	()	
達成状況説明	・買取申出期間を2ヶ月設け、先行取得事業のメリット等の周知に努めることで申出者を募った結果、8筆(1,473㎡)の買取りを実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
			用地取得率 目標 ()	(47%)	(100%)	(100%)
	実績	69.5%	71.8%	87.3%		
	目標 () 実績 ()	()	()	()	()	
進捗状況説明	・当初、地権者から目標を上回る面積の申し出があったものの、買取協議において、一部地権者から親族等の同意が得られない等の理由により申し出を取り下げた事案が発生したが、目標値に対し取得率が87.3%に達しており概ね達成することができた。					

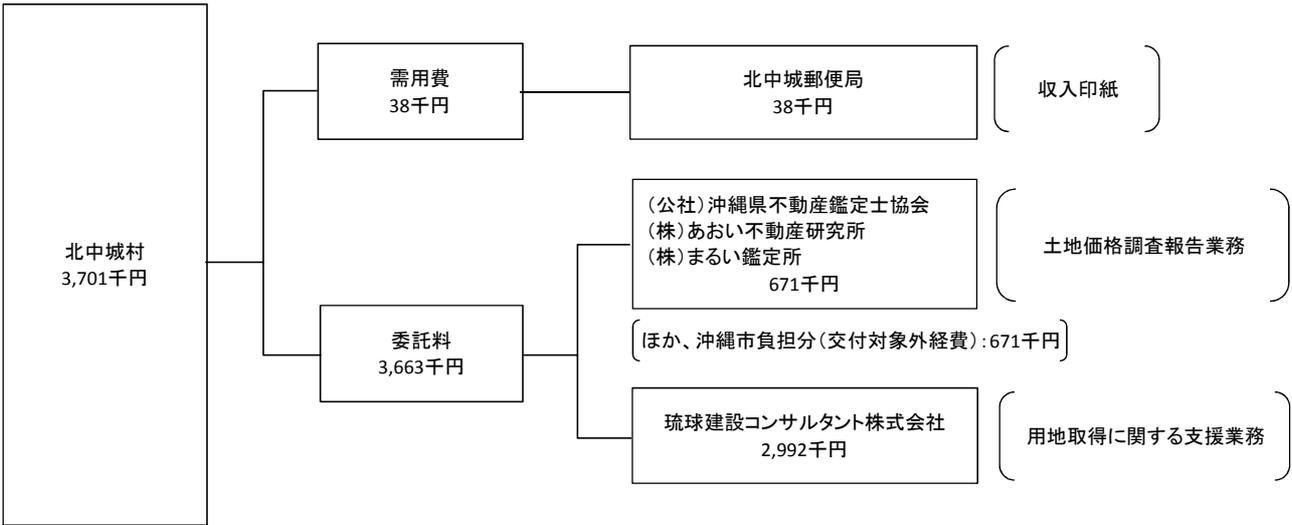
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・申出期間を2ヶ月設け周知に努めたことや地権者のデメリットとならないよう、所有権移転登記等を年内に完了できるよう取り組んだことで、目標値が概ね達成できた要因と考える。 ・地権者への周知に努めたことで目標面積を上回る申し出があったものの、親族の理解が得られない等の事象が発生していることから、幅広く周知活動に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先行取得事業のメリットについて、地権者のみならず幅広い周知に努める。 ・沖縄防衛局や国税事務所などの関係機関との協議を併行して進めることで、地権者の不利益とならないよう、効率的な事業執行を図る。

今後の取り組み方針

・2ヶ月の申出期間を設け、本事業の概要や進捗、メリット等の情報発信を行うことで、先行取得への理解醸成に取り組む。
 ・年内での所有権移転登記を完了するため、関係機関(沖縄防衛局、国税事務所)との協議を早期から取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,372	3,701	2,960	741	671



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・土地価格調査報告業務の委託事業者については、本事業の仕様に対応できる要件を有しており妥当である。 ・用地取得支援業務の委託事業者については、指名競争入札により選定しており妥当である。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用サポートセンター事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 Ⅲ-2	
事業内容	高い水準で推移する失業率の改善を図るため、雇用サポートセンターにおいて求人者と求職者のマッチング等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,364	2,364	4,595	4,214	5,012
		(b) 予算現額	2,364	2,364	4,093	4,214	4,214
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 502	0	▲ 798
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		2,364	2,364	4,093	4,214	4,214
	B. 執行済額		2,251	2,364	3,827	4,079	4,099
	うち交付金充当額		1,800	1,891	3,061	3,263	3,279
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.2%	100.0%	93.5%	96.8%	97.3%
予算の状況の説明		当初、雇用サポートシステムの更新を予定していたが、不要となったため798千円を減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	登録企業の開拓	目標	(40件)	(60件)	(60件)	(70件)	
		実績	62件	69件	41件	55件	
	事業活動の周知拡大	目標	(2媒体)	(3媒体)	(4媒体)	(4媒体)	
		実績	3媒体	3媒体	3媒体	4媒体	
	北中城中学校進路未決定者への支援	目標	()	()	(実施)	(実施)	
		実績			実施	実施	
	求職者個別支援	目標	(24件)	(24件)	(25件)	(25件)	
		実績	23件	33件	46件	33件	
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 新たな企業開拓については、55件の登録があり、概ね達成することができた。 事業周知については、雇用システムからの求人、求職情報案内に加え、ブログや村広報誌への定期掲載を実施した。 村グッジョブ連携協議会や北中城中学校との密な連携により、進路が決定しない中学生への支援を実施した。 求職者個別支援として、履歴書・職務経歴書の記入方法の支援や面接対策、マナー指導等を高齢者や若年者に対し実施した。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	失業者のマッチング	目標	()	(30人)	(30人)	(20人)	()
		実績			11人	11人	11人
	新規求人数	目標	()	(150件)	(180件)	(400件)	()
		実績			444件	201件	290件
	【H30成果目標】就業率:5%以上		目標				
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 企業側の資格要件と求職者の保有資格等に乖離があり、マッチング数が目標値の55%にとどまった。 介護や保育職などで求人ニーズが多く、昨年度を上回る新規求人数となったが、職種によっては求人を長期間行っても応募がないケースもあり、求人を渋る企業もあることから、目標値の72%程度となった。 					

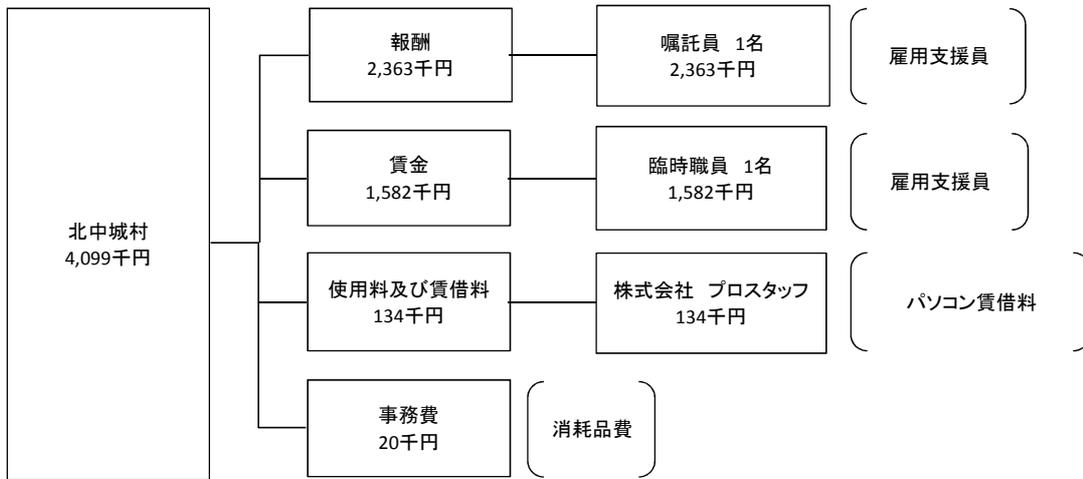
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 求職者が企業側に求める条件が高いため、希望に近い求人をも職種から選択できるよう、企業開拓を進める必要がある。 求人登録を促進するため、求人によるメリット等を周知する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 求人開拓だけでなく、幅広い事業所の開拓を進めることで、求人者と求職者のマッチング推進を図る。 企業に対し、雇用関係給付金等のメリットをPRし、高齢者や障がい者の雇用促進を図ることで、新規求人の増加に繋げる。

今後の取り組み方針

- 高齢者のセカンドキャリアに対応できる求人開拓に取り組む。
- ブログや広報誌での周知を継続して行うことで、最新の求人・求職情報の提供に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,099	4,099	3,279	820	0



資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 支出先の選定は、関係規則等に基づき行っており、妥当であるとする。 不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 費目・用途については、雇用サポート業務に精通した人員を配置しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	グジョブ連携推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成27~33年度	雇用機会の創出・拡大と求職者支援
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-2

事業内容 児童生徒の就業意識の向上を図るため、ジョブシャドウイングをはじめとするキャリア教育を実施する。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	14,934	18,001	18,998	
		(b) 予算現額	13,732	17,820	18,998	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,202	▲ 181	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	
		A. 計(b+d)	13,732	17,820	18,998	
		B. 執行済額	13,720	17,820	18,998	
		うち交付金充当額	10,976	14,256	15,198	
		次年度繰越額	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)	99.9%	100.0%	100.0%	
		予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。			

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
北中城村グジョブ地域連携協議会の運営	目標	(3回)	(3回)	()	()
	実績	3回	3回		
ジョブシャドウイング企業開拓数	目標	(100社以上)	(100社以上)	()	()
	実績	127社	114社		
職場体験企業開拓数(中学校1校)	目標	(100社以上)	(100社以上)	()	()
	実績	62社	58社		
きたなかキッズJOBクラブ入会者数	目標	(15人以上)	(15人以上)	()	()
	実績	34人	33人		
校内ハローワーク 高校生版テクニカルビジット	目標	(2回 1回)	(2回 1回)	()	()
	実績	2回 1回	2回 0回		
出前フォーラム(高等学校1校)	目標	(1校)	(1校)	()	()
	実績	1校	1校		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会については、当初の目標通り3回実施することができた。 ・ジョブシャドウイングの企業開拓は目標値を上回る企業を確保できたものの、職場体験では目標値の6割程度となった。 ・きたなかキッズJOBクラブでは、定員を大きく上回る入会者を確保することができた。 ・校内ハローワークについては目標通り2回開催したが、高校生版テクニカルビジットについては、「きたなかティーンJOBクラブ」に変更して取り組んだため0回となった。 ・出前フォーラムについては、村内県立高校において予定通り実施した。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
			就業に対するイメージの変容(「良いイメージ」と回答した者の比率:80%以上) ①ジョブシャドウイング ②職場体験 ③校内ハローワーク ④出前フォーラム	目標	()	(就業意識向上把握)
高校生版テクニカルビジット ・今後の進路決定への影響(「役に立った」と回答した者の比率:80%以上)	目標	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
	実績			100%	100%	
【H30成果目標】 就業に対する意識が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査により、本事業のあり方を検証する。	目標					80%以上
進捗状況説明	実際に働く姿を観察・体験することで、児童生徒の就業に対するイメージが良いものへと変容し、進路決定への参考となり、全ての項目において成果目標を達成することができた。					

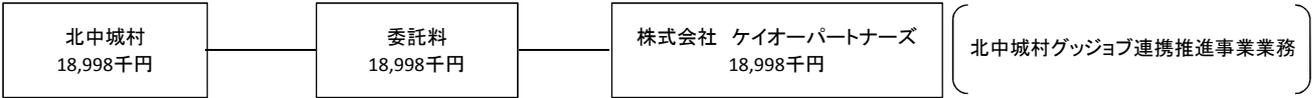
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や事業数との兼ね合いにより、本事業に必要な時間数の確保が難しく、各学校での十分な時間数の確保が必要である。 企業開拓を進めていくため、事業成果をフィードバックする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員に対し本事業の必要性について周知を図ることで、時数確保に繋げる。 事業所や保護者等に対し児童生徒のアンケート結果の公表や成果発表会を開催し、子ども達の就業に対する変遷をフィードバックすることで、協力事業所の開拓に繋げる。

今後の取り組み方針

・村グッジョブ地域連携協議会を通して、学校や教育機関に対し事業の必要性や年間スケジュール等の周知に努めることで、必要時間数の確保に取り組む。
 ・まつりや独自のパネル展の開催による事業所向けの成果発表に取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
18,998	18,998	15,198	3,800	0



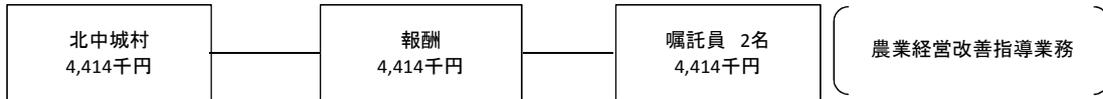
資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業者は、実績や知識等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと判断する。 不用額はなく適正規模であったと判断する。 費目・使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	営農支援強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ	
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	専門性の高い営農指導員の指導により、農業者に対し生産から販売までの総合的な営農体制を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,252	2,126	4,205	4,414	11,164
		(b) 予算現額	4,252	4,079	4,205	4,414	4,414
		(c) 増減額(b-a)	0	1,953	0	0	▲ 6,750
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		4,252	4,079	4,205	4,414	4,414
	B. 執行済額		2,332	4,080	4,205	4,414	4,414
	うち交付金充当額		1,865	3,263	3,363	3,530	3,530
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		54.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初、農家へのパイプハウス整備補助を予定していたが、整備に必要な資材の調達が困難となり年度内での実施が困難となったため、補助金6,750千円を減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	指導員の配置	目標	(2名)	()	()	(2名)	
		実績	2名			2名	
	【参考指標】 農家への経営指導及び技術支援の実施(40件)	目標	()	(40件)	(40件)	()	
実績			40件	40件			
達成状況説明	当初の予定通り、農業に関する専門知識を持った方を指導員として配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	指導した農家の年間出荷額	目標	()	(3,169千円以上)	()	()	()
		実績		4,926千円			
	【H30成果目標】 ・指導した農家の年間出荷額:3,456千円以上 ・パイプハウス施設の整備完了		目標				3,456千円以上 整備完了
	進捗状況説明	村のアンテナショップに加え、大型販売店への出荷することができたことで、成果目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 大型販売店への販路拡大に努めたことが、成果目標を達成する要因になったと考えられるが、今後も継続して出荷できるよう取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、指導員による経営指導及び新規就農者への支援を行うことで、拡大した販路への生産物の安定供給を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 拡大した販路への安定した農産物等の出荷を行うため、引き続き指導員による営農指導に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,414	4,414	3,530	884	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 指導員は、面接を経て資格や経験、業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。 不用額はなく、予算規模は適正であると判断する。 費目・用途については、農業に精通した人員を配置しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	地域ブランド構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	北中城村の特産品であるアーサ(ヒトエグサ)とは別の新たな食材を活用した商品開発やテストマーケティングを行うとともに、既存商品のブラッシュアップを行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	19,800	16,200	9,440	9,677	5,188
		(b) 予算現額	29,700	22,032	10,488	12,373	5,214
		(c) 増減額(b-a)	9,900	5,832	1,048	2,696	26
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	29,700	22,032	10,488	12,373	5,214
		B. 執行済額	27,488	19,247	7,753	10,329	5,191
		うち交付金充当額	21,990	15,397	6,202	8,263	4,153
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	92.6%	87.4%	73.9%	83.5%	99.6%
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏におけるテストマーケティングに伴う旅費実績に伴い26千円の増額補正を行った。 ・不用額23千円については、委託料の実績に伴う執行残によるものである。 						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況					
		28年度	29年度	30年度	31年度		
	開発した特産品取扱店の維持・開拓	目標 (開拓)	(維持・開拓)	()	()		
		実績	1店舗開拓	6店舗の維持・開拓			
	新たな食材を活用した新商品の開発	目標 (調査及び検討の実施)	(開発)	()	()		
		実績	調査及び検討の実施	開発			
	新商品及び既存商品のテストマーケティング	目標 ()	(実施)	()	()		
	実績		実施				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで開発した商品を物産展等でPRしたことで、6店舗において商品取扱いを継続することができた。 ・北中城村産パッションフルーツを村内事業者に提供することで、事業者の創意工夫による新たな新商品を開発することができた。 ・東京都内において、アーサを使った既存商品やパッションフルーツを使った新商品のテストマーケティングを実施することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)	
	当事業における開発商品類取扱店舗数	目標 ()	(3店舗)	(6店舗)	()	()	
		実績		6店舗	16店舗		
	新たな食材を活用した新商品の開発	目標 ()	()	(1商品)	()	()	
		実績			11商品		
	首都圏におけるテストマーケティング	目標 ()	(3店舗)	(2商品)	()	()	
		実績		6店舗	4商品		
【H30成果目標】	目標					①120千円 ②880千円 ③60千円 ④17千円 ⑤17千円 ⑥55千円	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでアーサを中心としていた商品にパッションフルーツ系商品を加えたことで、開発商品を取り扱ってもらえる店舗が大幅に増えた。 ・村内事業者の工夫を凝らした商品開発としてパッションフルーツを委ねたことで、目標値を上回る商品を開発することができた。 ・「沖縄県北中城村物産と観光フェア」と称して、東京駅近くの商業施設でマーケティングを実施したことで、成果目標を達成することができた。 						

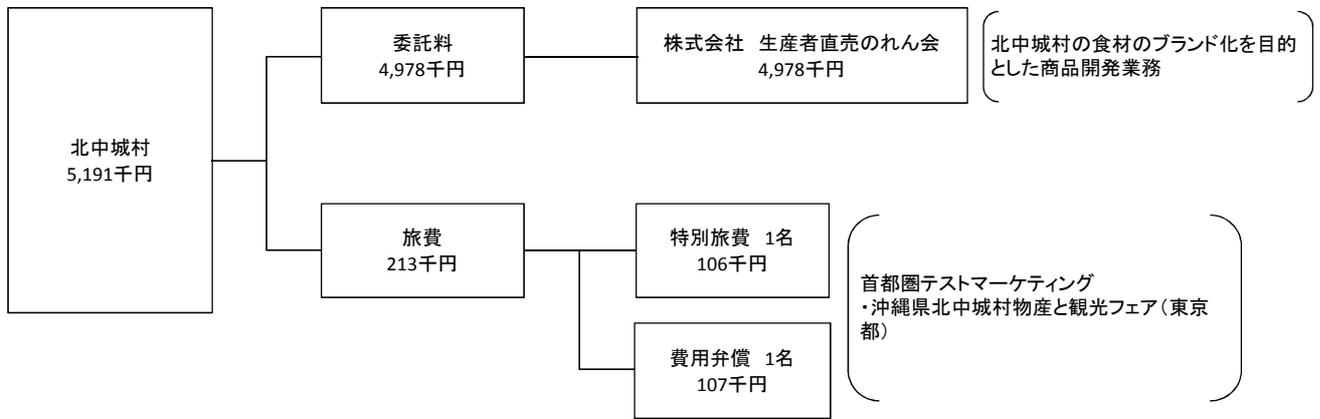
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・パッションフルーツを使った新たな商品を開発したことで、品数や取扱店舗も増えたが、生産者は既存の販売ルートを持っているため、原料の確保に苦慮したため、十分な仕入れ量の確保が必要である。 ・首都圏でのテストマーケティングでは、輸送コストの問題から持ち出せない商品もあったことから、これらを売り出すための対策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の販売ルートに乗らない規格外品等を入手できるよう、生産者と事前調整を行うことで、原材料の確保を図る。 ・輸送コストがかかる商品のご当地メニュー化することで、商品ブランド化を図る。

今後の取り組み方針

・商品加工するためのパッションフルーツの確保に努めるとともに、新たにパッションフルーツピューレの商品化に取り組む。
 ・アーサ及びパッションフルーツを中心に、これらを原料とする商品のPRを引き続き県内外で実施する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,191	5,191	4,153	1,038	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと判断する。 ・不用額は5%以内であり、適正な規模であったと判断する。 ・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

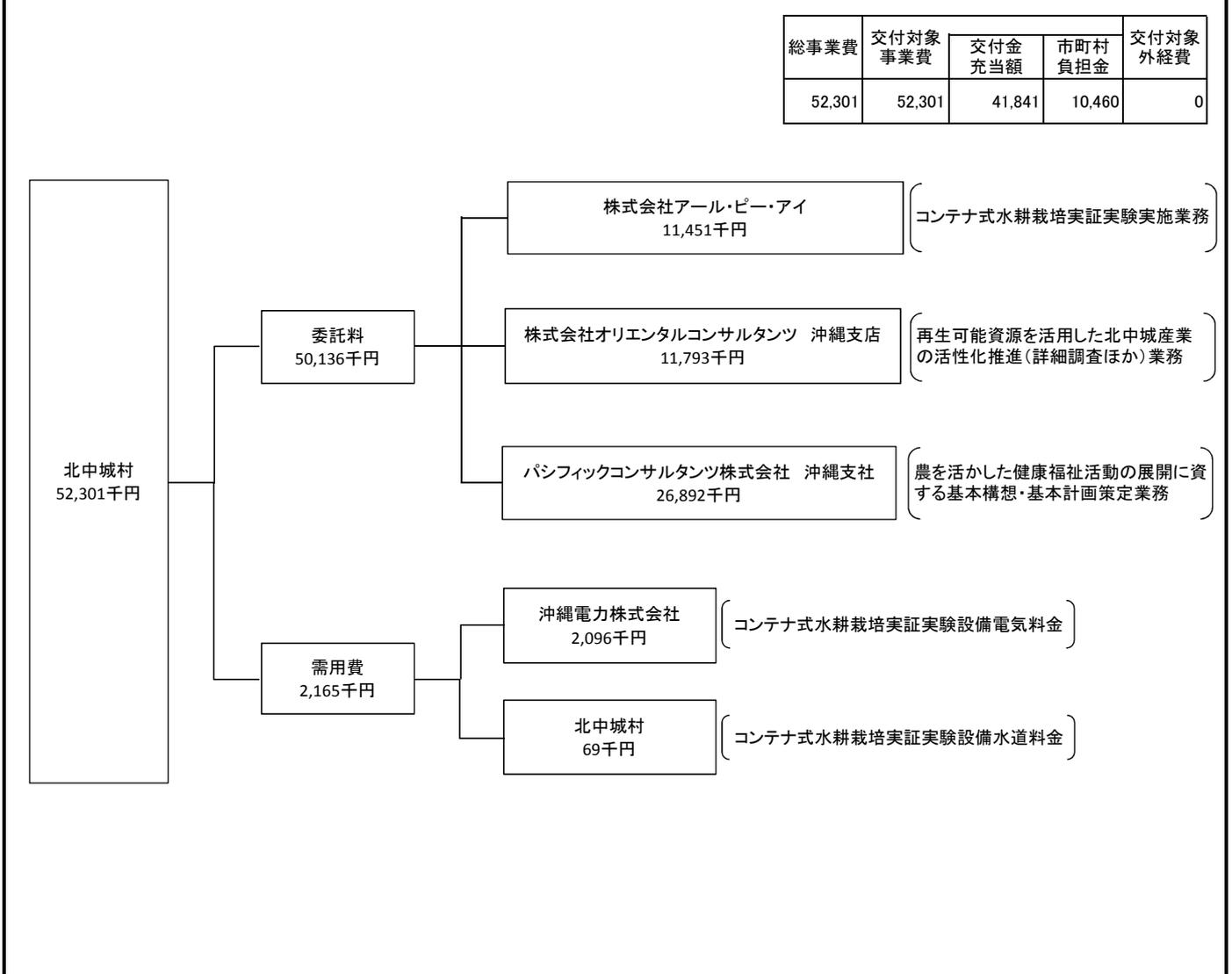
市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③ 農を活かした北中城活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-ア			
	担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成28~33年度	ものづくり産業の戦略的展開		
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)			
事業内容	<p>耕作放棄地の解消や農業従事者不足の解消を図り、持続性のある農業を確立するため、水耕栽培の実証実験を実施するとともに、バイオガス発電設備が機能を発揮しうるか検証するための調査を行う。</p> <p>また、健康長寿等の活動支援施設及び農業を活用した周辺環境整備に関する村づくりの基本構想・基本計画の策定を行う。</p>						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(32年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		15,140	14,943			
			105,134	52,557			
			89,994	37,614			
			—	—			
		105,134	52,557				
	B. 執行済額 うち交付金充当額		103,174	52,301			
			82,539	41,841			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		98.1%	99.5%			
予算の状況の説明	<p>・バイオガス発電設備の検証に向けた調査及び農業を活用した周辺環境整備に関する村づくりの基本構想・基本計画策定業務を新たに加えたため、37,614千円を増額した。</p> <p>・不用額256千円については、水耕栽培実証実験に係る光熱水費の執行残によるものである。</p>						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	水耕栽培実証実験の実施	目標	(実証実験設備の整備)	(実施)	()	()	
		実績	実証実験設備の整備完了	実施			
	生ごみの構成成分等に係る詳細調査の実施	目標	()	(調査の実施)	()	()	
		実績		調査の完了			
農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画の検討	目標	()	(基本構想・基本計画の検討)	()	()		
	実績		基本構想・基本計画の検討完了				
達成状況説明	<p>・水耕栽培実証実験では、栽培4品目以上の生産性及び適正な生育環境の構築などの実証を行った。</p> <p>・生ごみの構成成分等に係る詳細調査では、バイオガス発電設備が機能を発揮しうるか否かについて調査を実施した。</p> <p>・農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画の検討にあたっては、仕様書に基づく作業・活動による検討がなされた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(32年度)
	水耕栽培実証実験の完了	目標	()	(実証実験設備の設置完了)	(実証実験の完了)	()	()
		実績		完了	完了		
	詳細調査の完了	目標	()	()	(完了)	()	()
		実績			完了		
	農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画の策定	目標	()	()	(策定)	()	()
実績			H30交付決定変更②の申請中 ・・・成果目標が変わる可能性あり		策定		
【H32成果目標】 水耕栽培農業者の増:0→6人	目標					6人	
進捗状況説明	<p>・水耕栽培実証実験では、6品目において生育期間や生産量・質に関する栽培成果を得ることができた。</p> <p>・生ごみの構成成分等に係る詳細調査では、バイオガス発電設備が機能を発揮しうるか否かを調査した結果、研究室での試験結果において、事業化レベルの数値を得ることができた。</p> <p>・農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画の検討にあたっては、ヒアリング調査や健康及び福祉関連での役割・導入機能の検討、医食同源の取り組みや滞在型市民農園などの効果検討を行い、基本構想・基本計画を策定することができた。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(水耕栽培実証実験) ・目標とする栽培成果4品目を達成したものの、それ以外の品目については成功には至らなかったことから、それぞれの設備の課題解決に取組む必要がある。 ・栽培品目の6次産業化に向けた検討を行う必要がある。 (再生可能資源(生ごみ)によるバイオマスガス発電設備) ・食物残渣の詳細分析の結果、メタンガス発生の有効性は高いとの成果を得たが、課題となるアンモニアの発生も高いことから、有効かつ効率的な設備・装置の構築及び事業展開に向けた検討を行う必要がある。 (農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画) ・計画の推進にあたっては、村内営農者や地域住民等への周知・理解醸成が必要である。	(水耕栽培実証実験) ・それぞれの実証設備の改善・改修による栽培環境の向上を図る。 ・水耕栽培品目を活用した6次産業化試作品開発や体制づくりなどについて検討を行う。 (再生可能資源(生ごみ)によるバイオガス発電設備) ・食物残渣の有効かつ効率的な設備・装置の構築及び事業展開についての検討や実証実験の在り方などの検討を行う。 (農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画) ・村内営農者や地域住民を交えた周知、実践する人材や企業などの取り込みを行うことで、計画の推進を図る。

今後の取り組み方針

(水耕栽培実証実験) ・栽培環境の改善・効率化を図ることで、栽培収量の改善及び栽培品目の多様化に取り組む。 ・栽培品目を活用した6次産業化試作品の開発及び市場性検討について取り組む。 (再生可能資源(生ごみ)によるバイオガス発電設備) ・生ごみのエネルギー化・堆肥化への設備・装置の構築に向け、実証実験導入も含めた基本プランの検討に取り組む。 (農を活かした健康福祉活動の展開に資する基本構想・基本計画) ・計画推進に向け、地域説明会や意見交換会を行い、今後の人材育成、意欲ある農業者の掘り起こしに取り組む。 ・滞在型市民農園における営農指導員づくりに取り組む。
--

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明
使途の 流れ、 点検 評価、 費用	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、指名競争入札及び公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額が事業費の5%以内であることから、予算規模は適正であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費用・使途は、事業内容を勘案して適切かつ事業目的に即し真に必要なものであったとの確認を業務完了時の検査において精査しており、妥当なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	災害時要援護者避難支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ
担当部署名	福祉課	事業実施(予定)年度	平成24~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				災害に強い県土づくりと防災体制の強化
				Ⅲ-10-(2)

事業内容 災害時要援護者の円滑な避難を図るため、避難支援や自主防災組織等への防災資機材整備の支援を行う。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	11,000	4,704	5,054	4,977	6,467
	(b) 予算現額	11,000	4,704	5,204	4,977	6,467
	(c) 増減額(b-a)	0	0	150	0	0
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	11,000	4,704	5,204	4,977	6,467
	B. 執行済額	8,597	4,674	5,096	4,874	6,362
	うち交付金充当額	6,877	3,739	4,077	3,898	5,089
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	78.2%	99.4%	97.9%	97.9%	98.4%
予算の状況の説明	不用額105千円については、委託業務の実績に伴うものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
要援護者個別支援計画の策定	目標	(30件)	(30件)	(20件)	(20件)
	実績	24件	44件	15件	15件
自主防災組織設立	目標	(2団体)	(1団体)	(1団体)	(2団体)
	実績	1団体	1団体	1団体	2団体
防災資機材整備	目標	(2団体)	(1団体)	(1団体)	(2団体)
	実績	1団体	1団体	1団体	2団体
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 要援護者個別支援計画の策定については、事業コーディネーターを中心に地域との連携を図り、概ね策定することができた。 自主防災組織の設立支援を行ったことで、沿岸部に1団体、内陸部に1団体設立することができ、それぞれ必要な防災資機材も併せて整備することができた。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
		要援護者が参加した地区避難訓練・防災訓練の実施	目標	()	()	(4回)	(4回)
	実績				4回	5回	
	地区の避難訓練・防災訓練に参加した要援護者数	目標	()	()	(延べ20人)	(延べ20人)	()
実績				延べ16人	延べ16人		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練・防災訓練については、新規自主防災組織も含めた4団体において実施されたことで成果目標を達成することができた。 訓練に参加した要援護者数については、各団体が実施に向け計画的に取り組んだことで目標値を概ね達成することができた。 						

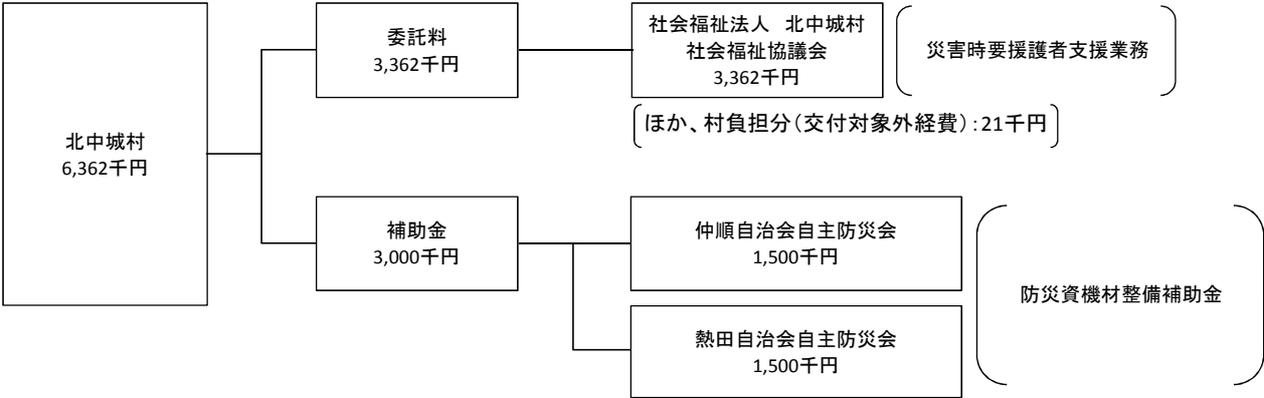
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 津波被害が懸念される沿岸地域を中心に避難訓練等を実施できたが、災害時の要援護者となる方々の参加呼びかけを行う必要がある。 内陸部の自主防災組織は1団体のみとなっており、台風や土砂災害等被害を想定した場合、内陸部での組織設立も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別計画策定の周知を行うことで、要援護者となる方々への意識醸成を図る。 自主防災組織設立時の資機材支援のメリットを周知することにより、内陸部での組織化を図る。

今後の取り組み方針

・引き続き個別支援計画の策定を進めることで、要援護者も一緒になった避難訓練・防災訓練に取り組む。
 ・台風や豪雨による土砂災害に備えるため、内陸地区における自主防災組織設立に向けた支援に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,383	6,362	5,089	1,273	21



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託者については、実績等を勘案した上で選定しており妥当であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額は5%以内であり、妥当であると判断する。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・補助団体は、総事業費の1割を負担していることから、負担割合は妥当であると判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。

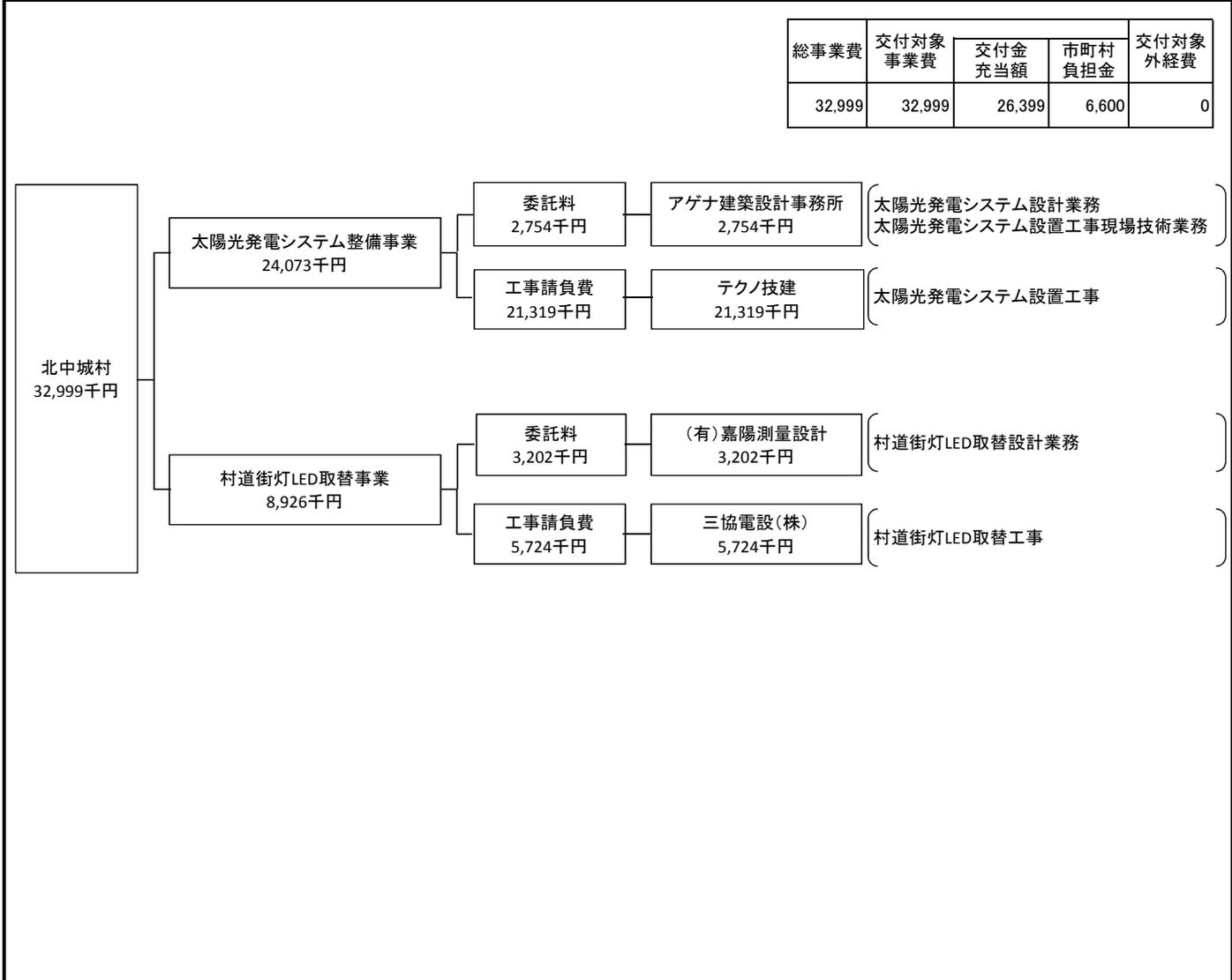
市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-① 公共施設等エコアクション推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(3)-ア		
	建設課・生涯学習課		事業実施(予定)年度 平成24~33年度		地球温暖化防止対策の推進		
担当部署名					III-10-(1)		
事業内容	北中城村におけるエコアクションを推進するため、公共施設におけるクリーンエネルギー(太陽光)の導入及び街路灯などにおける省エネルギー化のためのLEDへの切り替えを行なう。						
効果発現年度	□当年度 ■後年度(31年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	39,700	—	17,180	18,300	27,507
		(b) 予算現額	42,840	—	16,837	16,076	33,038
		(c) 増減額(b-a)	3,140	—	▲ 343	▲ 2,224	5,531
		(d) 繰越額	—	27,866	—	—	—
	A. 計(b+d)		42,840	27,866	16,837	16,076	33,038
	B. 執行済額		14,974	24,851	16,837	15,660	32,999
	うち交付金充当額		11,979	19,881	13,469	12,528	26,399
	次年度繰越額		27,866	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		35.0%	89.2%	100.0%	97.4%	99.9%
予算の状況の説明		・太陽光発電システム整備事業において、委託料及び工事費の入札残等により3,396千円を減額した。 ・当初、太陽光発電システム整備事業のみを予定していたが、村道街灯LED取替事業を追加したため、8,927千円を増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	太陽光発電システム設置に向けた検討	目標	(検討)	()	()	()	
		実績	検討の実施				
	既設街灯電球をLEDへ切替え	目標	(切替実施)	()	()	()	
		実績	切替えの実施				
	既存街灯をLED街灯に切替えるための設計の検討	目標	(設計検討)	()	()	()	
実績		設計検討の実施					
達成状況説明	・太陽光発電システムの導入に向け、施設に必要な規格等の詳細検討を実施した。 ・既存街灯をLEDに切替えるため、詳細設計を検討し、切替作業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(31年度)
	太陽光発電システムの設置	目標	()	()	()	(1箇所)	()
		実績				1箇所	
	既設街灯電球のLED交換	目標	()	(740箇所)	(327箇所)	(20基)	()
		実績		350箇所	328箇所	20基	
	既設街灯のLED化検討設計の完了	目標	()	()	()	(設計完了)	()
		実績				設計完了	
【H31成果目標】既存街灯14基のLED化によるCO2排出削減量 5.9t-CO2		目標				5.9t	
進捗状況説明	・太陽光発電システムの整備については、施設を管理する自治会との調整を早期に取り組んだことで詳細検討が円滑に進み、地区公民館への設置が計画通り行われた。 ・既設街灯電球のLED化については、詳細設計に基づき適切に作業を実施したことで、計画していた20基全ての切替えを完了することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(太陽光発電システム整備事業) ・システムに蓄電池を導入したことで、エコ推進だけでなく、災害時の機能強化にも繋がるため、自治会の同意も得られたことが目標達成の要因と考えられる。 ・未導入の地区公民館への普及に向け、自治会との連携が必要である。	(太陽光発電システム整備事業) ・本システムの導入が、エコ推進だけでなく、災害時の機能強化に役立つことを周知することで、設置推進を図る。
	(村道街灯LED取替事業) ・今後取替えが必要な既設街灯の設計検討を行ったことで、計画的に事業を執行することが可能となり、目標値を達成する要因となった。	(村道街灯LED取替事業) ・設計内容に基づき、既設街灯のLED化を図る。

今後の取り組み方針

(太陽光発電システム整備事業) ・自治会長会を通して、太陽光発電システムの普及啓発に取り組む。
(村道街灯LED取替事業) ・村道部においてLED化されていない道路照明灯へのLED化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者及び施工業者は、指名競争入札を経て契約しており、選定方法は妥当であったと考える。 ・不用額は、事業費の5%以内であり適正であったと考える。 ・費目・使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	総合英会話指導支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進	
事業内容	国際性豊かな人材育成及びスキルアップを図るため、英語を母国語とする外国人や英会話能力に優れた講師による英会話指導を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,552	6,552	6,552	7,938	7,938
		(b) 予算現額	6,552	6,360	6,497	6,734	6,347
		(c) 増減額(b-a)	0	▲192	▲55	▲1,204	▲1,591
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		6,552	6,360	6,497	6,734	6,347
	B. 執行済額		6,330	6,322	5,438	6,641	6,249
	うち交付金充当額		5,064	5,057	4,350	5,312	4,998
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.6%	99.4%	83.7%	98.6%	98.5%
予算の状況の説明		・夏休み等の長期休業中に係る経費を交付対象外経費としたことで、1,591千円を減額した。 ・不用額98千円については、指導員の勤務実績に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	英会話指導員配置数 小学校:1人 中学校:1人 幼小兼務:1人	目標	(3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
		実績	3人	3人	3人	3人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・村立小学校(2校)及び中学校(1校)のすべてに指導員を配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	英語検定(英検Jr.含む)の受検者数	目標	()	(380人)	(450人)	(435人)	()
		実績		401人	513人	272人	
	児童生徒への英会話指導員の配置によって英語に対する興味・関心が向上したかについてのアンケート(興味・関心が高まった割合:80%以上)	目標	()	()	()	(80%以上)	()
		実績				98.1%	
	進捗状況説明	・受検者数については、英語検定の受検日が、中学校体育大会と重なるなど、他行事との競合により、成果目標に対し63%程度の達成率となった。 ・指導員全員が外国籍を持ち、英語を母国語としており、児童生徒が生きた英語に触れる機会が増えたことで、英語に対する興味・関心が目標数値80%を上回る98.1%と高い結果となった。					

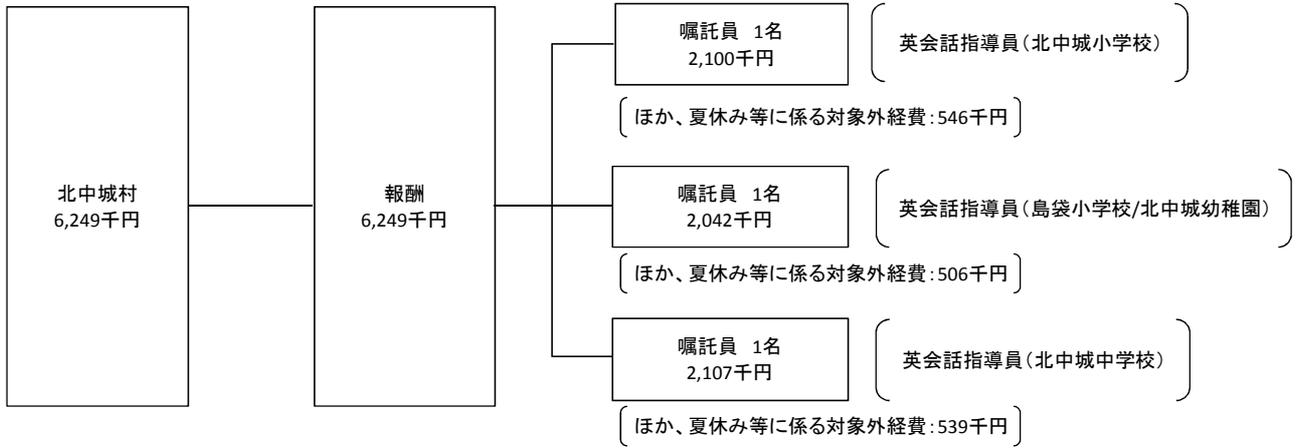
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブスピーカーによる生きた英語の実践により、英語への興味・関心が高まった要因と考える。 ・行事等との兼ね合いにより、受検者数が左右されることから、早期からの周知が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の指導方法等について、学校教諭と連携して取り組むことで、効果的な生きた英語の指導に繋げる。 ・小学校において、英検Jr.を推進し、幅広い層での受検促進を図る。

今後の取り組み方針

- ・学校と連携し、夏休み等の長期休業期間を活用した英会話指導方法の情報交換・意見交換を行う。
- ・受検機会を増やすため、英検Jr.についても案内・周知に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
7,840	6,249	4,998	1,251	1,591



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員は、英語を母国語とする外国人を面接を経て採用しており、妥当であると判断する。 ・不用額は事業費の5%以内であり、妥当であると判断する。 ・児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目・使途は事業目的に即したものであると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②	アメリカ教育機関ネットワーク形成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進	
事業内容	国際社会で対応できる人材を育成するため、米国のワシントン州立大学教員によるWEBシステム集中講座を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,755	4,755	6,553	5,422	5,422
		(b) 予算現額	4,755	4,755	6,553	5,422	5,514
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	92
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		4,755	4,755	6,553	5,422	5,514
	B. 執行済額		4,685	3,817	5,430	5,383	5,474
	うち交付金充当額		3,747	3,053	4,344	4,306	4,379
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.5%	80.3%	82.9%	99.3%	99.3%
予算の状況の説明		・92千円の増額補正については、委託業務の精算に伴うものである。 ・不用額40千円については、消耗品等の執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	中学生クラス(前期32回・後期32回)	目標	(64回)	(64回)	(64回)	(64回)	
		実績	64回	64回	64回	64回	
	小学生クラス(前期32回・後期32回)	目標	(64回)	(64回)	(64回)	(64回)	
		実績	64回	64回	64回	64回	
達成状況説明	・小学生クラス、中学生クラスともに前期32回・後期32回の講座を開催し、活動目標を達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	受講生人数(前期24人、後期24人)	目標	()	(24人)	(24人)	(前期24人 後期24人)	()
		実績		20人	21人	前期22人 後期21人	
	【H30成果目標】 定期テストにおける英語習熟度:講座を受けた生徒全員80点以上		目標				80点以上
進捗状況説明	・学校の部活が多忙であることを理由に、後期受講生が1人減となった。 ・複数の生徒が、達成度を確認するためのテストで合格ラインをクリアすることができず修了できなかったが、ほとんどの生徒が英語によるコミュニケーションスキルが向上しており、目標数値においても概ね達成することができた。						

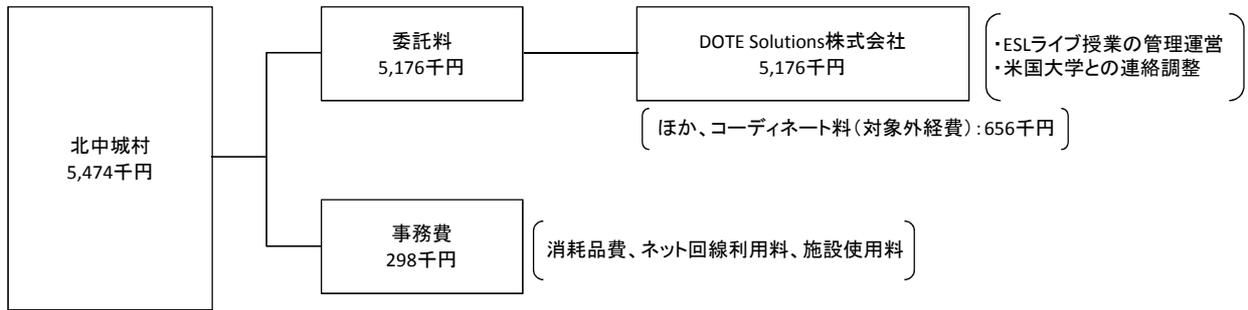
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 部活動等により、講座を途中で辞める生徒もあり、継続して受講できるよう取り組む必要がある。 継続受講する生徒と新規受講生との英語力に大きな差があるため、講座内容を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講できない場合は補習等を行うことで、授業の遅れをカバーし、継続して受講できる環境づくりを図る。 英語力に応じたクラス編成を行い、英語力のバラツキを抑える。

今後の取り組み方針

・ALTやスタッフによる学習指導等のサポートを充実させることで、継続して受講できる環境づくりに取り組む。
 ・英語力のバラツキが大きい小学生クラスについて、2クラス編成を行い、レベルに応じた指導を集中的に取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,130	5,474	4,379	1,095	656

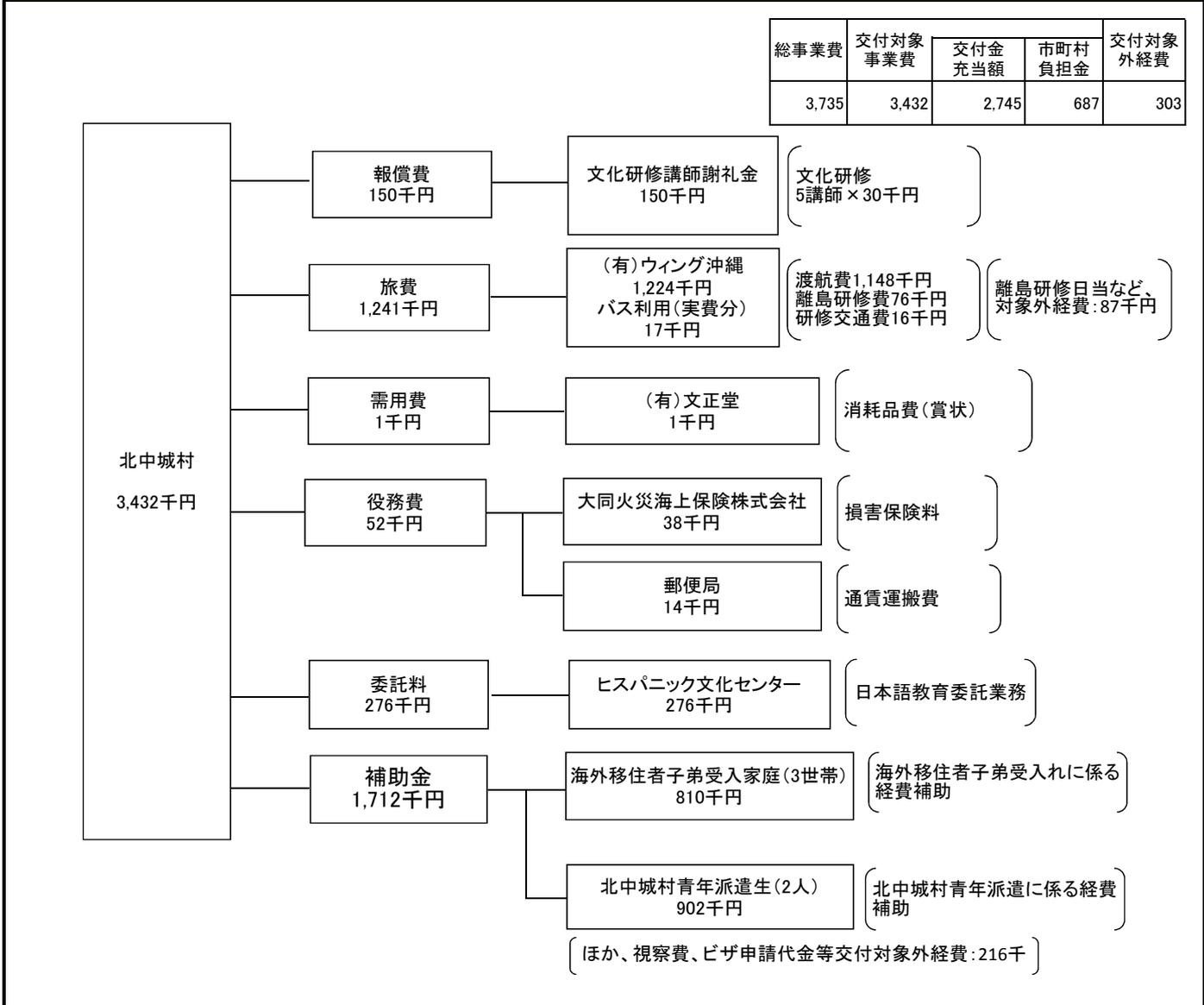


資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、実績等を勘案したうえで選定しており、妥当であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額は事業費の5%以内であり、妥当であると判断する。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受講生からは受講料を徴収しており、負担関係は妥当であると判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-③		海外子弟青年交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部署名	総務課		事業実施(予定)年度	平成24~32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	北中城村と海外を結ぶ懸け橋となる人材育成を図るため、南米3カ国(ペルー、アルゼンチン、ブラジル)の村人会に研修生を派遣するとともに、当該3カ国から研修生の受入れを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,246	4,838	4,413	4,490	4,122
		(b) 予算現額	2,246	4,838	4,189	3,540	3,516
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲224	▲950	▲606
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		2,246	4,838	4,189	3,540	3,516
	B. 執行済額		959	3,456	3,733	3,385	3,432
	うち交付金充当額		767	2,765	3,451	2,708	2,745
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		42.7%	71.4%	89.1%	95.6%	97.6%
予算の状況の説明		・606千円の予算減額については、海外子弟研修生受入れに伴う旅費(▲303千円)及び海外派遣補助金(▲303千円)の実績によるものである。 ・84千円の不用額については、消耗品及び通信運搬費等の実績に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・北中城村青年派遣生人数 ・海外移住者子弟受入生人数	目標	(派遣:2人 受入:3人)	(派遣:2人 受入:3人)	(派遣:2人 受入:3人)	(派遣:2人 受入:3人)	
		実績	派遣:2人 受入:3人	派遣:2人 受入:3人	派遣:2人 受入:3人	派遣:2人 受入:3人	
	研修報告会の開催(各研修1回)	目標	()	(各研修1回(計2回))	(各研修1回(計2回))	(各研修1回(計2回))	
実績			各研修1回(計2回)	各研修1回(計2回)	各研修1回(計2回)		
達成状況説明	・北中城村青年派遣生を当初の計画通り2人を派遣し、ホームステイを通じた習慣・文化の交流、学校や資料館などの視察により移民の歴史を知ることができた。 ・海外移住者子弟受入れについても、当初の計画通り3人を受け入れ、ホームステイや伝統芸能講座を通して沖縄の文化・習慣を体験することができた。 ・青年派遣生による報告会を1回、海外移住者子弟受入生による報告会を1回ずつ開催したことで、研修生が体験してきたことを村民へフィードバックすることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	研修報告会を開催し国際相互理解に対する意識向上を図るため本事業に賛同する住民を集結した組織(結の会)の会員数	目標	()	(60人)	(60人)	()	()
		実績		62人	64人		
	帰国後に各村人会が開催する行事等にて三線や琉舞など沖縄で学んだ成果を報告する	目標	()	()	(報告会3回)	()	()
		実績			報告会3回		
【H30成果目標】	目標					80%以上 80%以上	
進捗状況説明	・結の会会員数については、研修報告会の開催に加え、広報誌等への掲載や北中城しおさいまつりでの移民展ブースの開設により、64人の会員を確保することができた。 ・海外移住者子弟研修生の帰国後の報告会については、それぞれの母国(ブラジル、ペルー、アルゼンチン)において実施しており目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・研修報告会や広報誌、まつり等での積極的な啓発活動により、結の会会員を増やす要因となったことが考えられる。 ・結の会の会員数は増えているものの、当会の活動内容のひとつである海外移住者子弟研修生の受入家庭の確保が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結の会において、ホームステイ先が安心して受け入れられるよう環境を整える必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・海外移住者子弟研修生と受入家庭との慎重なマッチングを図るため、ハウスルールの作成に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は北中城村契約規則に基づき随意契約で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・研修生に対し、研修に必要な費用(滞在費・旅費等)のみを補助対象としており、負担関係は妥当であったと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・用途について、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	琉球歴史風致資産調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	北中城村の伝統文化を継承し、住民等の理解を深めるため、歴史風致資産について文献資料による補足調査を行うとともに、村内で行われている伝統的な民俗祭祀行事について、映像記録の作成・編集、聞き取り調査及び関連史料の収集・内容分析を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(33年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	22,226	23,315	9,459	8,881	8,881
		(b)予算現額	22,226	23,315	9,019	8,881	8,831
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲440	0	▲50
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		22,226	23,315	9,019	8,881	8,831
	B. 執行済額		20,550	23,022	8,947	8,795	8,822
	うち交付金充当額		16,439	18,418	7,157	7,036	7,057
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		92.5%	98.7%	99.2%	99.0%	99.9%
予算の状況の説明		・臨時職員の勤務実績を勘案し、50千円を減額補正した。 ・不用額9千円については、臨時職員賃金の執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	過年度分補足調査	目標	()	(200箇所)	(200箇所)	(200箇所)	
		実績		202箇所	204箇所	200箇所	
	民俗祭祀行事調査	目標	(民俗祭祀行事調査の実施)	(20件)	(8件)	(2件)	
		実績	民俗祭祀行事調査の実施	20件	6件	2件	
調査記録(動画)の公開に向けた編集	目標	()	(仕様検討)	(10件)	(15件)		
	実績		仕様設計の完了	14件	15件		
達成状況説明	・過年度分補足調査については、囑託員との複数体制で精査・作成にあたったことから、着実に目標を達成することができた。 ・民俗祭祀行事調査については、計画通り現地調査を行うことで目標を達成することができた。 ・調査記録の編集については、囑託員の監修・指示のもと臨時職員が遂行することで、15件の編集を完了することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(33年度)
	歴史風致資産の情報発信及び歴史まちづくり計画策定作業への活用に向けた詳細資料の完成	目標	()	(200件)	(200箇所)	(200箇所分)	()
		実績		202件	204箇所	200箇所	
	民俗祭祀行事の現地調査(調査所見レポート)の完了	目標	()	(20件)	(8件)	(2件)	()
		実績		20件	6件	2件	
	民俗祭祀行事の調査記録動画の公開用資料化	目標	()	(仕様設計の検討)	(10件)	(15件)	()
実績			仕様の検討と設計の完了	14件	15件		
【H33成果目標】WEB公開による年間アクセス数:660回		目標				660回	
進捗状況説明	・詳細資料の作成については、現地調査と関連史料による補足調査成果とを組み合わせ解説資料とすることで、閲覧者の理解が深まるよう工夫しながら実施し、計画通り成果目標を達成することができた。 ・民俗祭祀行事調査については、順調に現地調査を実施し、計画通り成果目標を達成することができた。 ・記録動画の公開用資料化については、動画への挿入テロップ(解説原稿)案を、公開に耐えうる内容となるよう監修に努め、計画通り成果目標を達成することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 各種現地調査が完了するため(悉皆調査:H26完了、民俗祭祀行事調査:H29完了、補足調査:H30完了見込み)、今後は調査成果の資料整理と調査報告書の作成等を行う必要がある。 作業内容の変化に伴い、業務の効率化を図るため現行の人員配置(各員の担当業務)を見直す必要がある。 今後の調査報告書の原稿執筆・版組などを進めていくうえで、各嘱託員の執筆水準や範囲、表記方法などにバラツキを抑える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで各嘱託員に個別に割り振りしていた各種の作業を複数名で分担できる体制へ変更することで、資料整理に関する編集・監修方針を共有、業務の効率化を図る。 調査報告書原稿等の執筆・編集の方針等については、あらかじめ基準を統一してあたるほか、一定段階において嘱託員間で都度校正・監修をかけることで、作業の効率化を図る。

今後の取り組み方針

・資料整理・調査報告書原稿の執筆・編集については、あらかじめ基準・方針等を統一・共有しながら進める。
 ・進捗に応じて相互回覧による校正・監修(監修会議)に取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
8,822	8,822	7,057	1,765	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先について、村規則にのっとり専門知識を有する人員を委嘱しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額が5%以内となっており、適正な規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を点検した結果、適正であったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-②	中城間切ノロ関係資料集作成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
事業内容	北中城村独自の歴史を広く発信するため、「中城間切ノロ資料集(仮)普及版(ビジュアル版)」として発刊する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(30年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,456	2,654	2,473	6,224	4,315
		(b) 予算現額	2,456	2,654	2,473	6,650	4,758
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	426	443
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		2,456	2,654	2,473	6,650	4,758
	B. 執行済額		2,256	2,604	2,378	6,461	4,733
	うち交付金充当額		1,804	2,083	1,902	5,169	3,786
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		91.9%	98.1%	96.2%	97.2%	99.5%
予算の状況の説明		・印刷製本費において、編集過程でページ数が当初の予定より増えたため、443千円の増額補正を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	普及版(ビジュアル版)原稿執筆及び編集完了	目標	()	()	()	(執筆・編集の完了)	
		実績				執筆・編集の完了	
	専門部会の開催	目標	()	(3回)	(3回)	(2回)	
		実績		1回	4回	1回	
監修を経た原稿の校正・編集	目標	(ノロ関係者への聞き取り及び現地調査)	(解説原稿50点原稿執筆6項目)	(200ページ)	(200ページ)		
	実績	ノロ関係者への聞き取り及び現地調査	解説原稿70点原稿執筆6項目	500ページ	368ページ		
達成状況説明	・原稿執筆・編集作業については順調に完了することができたが、作業過程で内容に検討を加えた結果、ページ数が368ページとなった。 ・監修を経た原稿の校正・編集については、ページ数が当初の想定より大幅に増えたものの、滞りなく完了することができた。 ・専門部会については、編集の完了した原稿について監修をかけるために2回の開催を予定していたが、大幅な内容変更・修正がなかったため1回のみ開催となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	「中城間切ノロ資料集(仮)普及版(ビジュアル版)」の発刊	目標	()	(本巻の発刊)	(普及版の発刊)	()	()
		実績		本巻の発刊	普及版の発刊		
	【H30成果目標】普及版利用者に対しアンケート調査を実施し、村の歴史への理解が深まったか(80%以上)を含め、本事業のあり方について検証する。		目標				80%
進捗状況説明	ページ数の増加により編集作業量が増えたものの、「目で読む 島袋のろ殿内資料」として発刊し、成果目標を着実に達成することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・編集過程において、冊子原稿が想定以上のページ数となったが、印刷業者と同等のDTPソフトを用い編集・入稿したことにより効率的に校正作業を進めたことが目標達成の要因と考える。 ・発刊した冊子の普及・活用を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発刊した冊子を広く外部へ周知・公開し、関連分野での研究資料として活用してもらうことで、普及・活用を促進する。

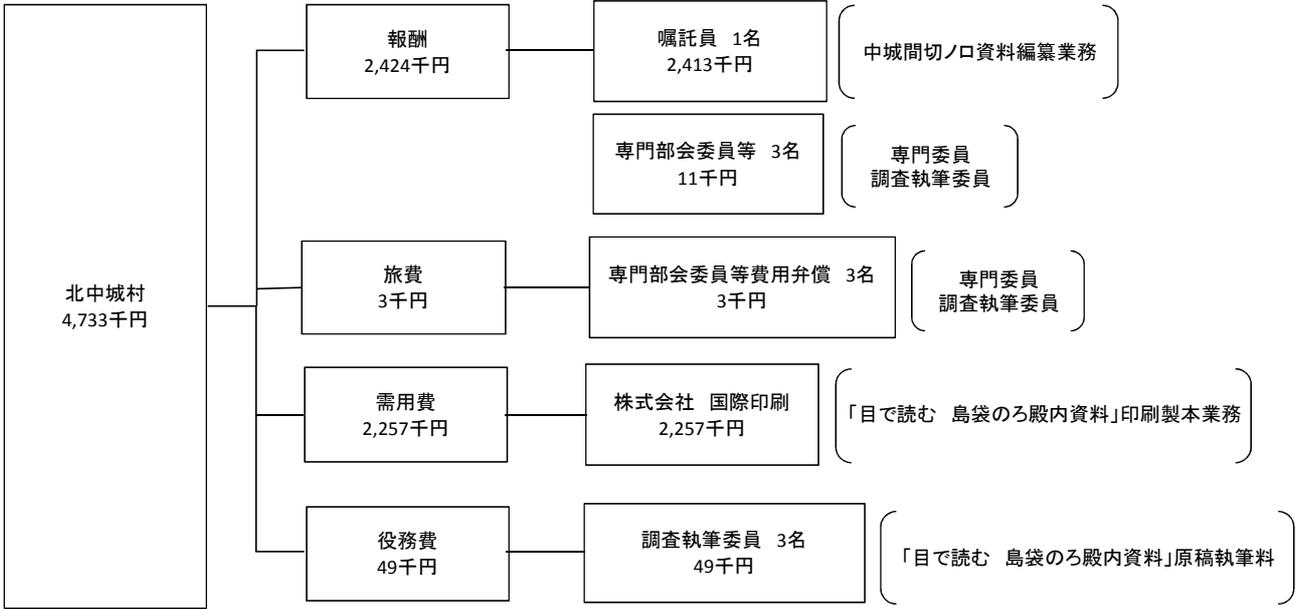
今後の取り組み方針

発刊した冊子については、下記の通り普及・活用を図る。

- ・村内の機関等(自治会、小中学校)に配布し、住民に村の歴史の一端にふれてもらう。
- ・県民が広く閲覧できるよう、県内の図書館へ配布・配架する。
- ・関連分野の研究に資するため、県内の教育委員会(地域史編纂所管部局)や大学、博物館、その他関係機関へ配布する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,733	4,733	3,786	947	0



資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷製本業者は、指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考える。 ・不用額は、事業費の5%以内であり適正であったと考える。 ・費目・用途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9-①	特別支援教育支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-エ
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	要保護児童やひとり親家庭等への支援
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3

事業内容
 特別な支援を要する児童生徒について、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、村立幼稚園、小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置する。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	29,568	29,429	29,430	46,220	53,729
	(b) 予算現額	29,497	26,319	26,607	38,066	44,607
	(c) 増減額(b-a)	▲ 71	▲ 3,110	▲ 2,823	▲ 8,154	▲ 9,122
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	29,497	26,319	26,607	38,066	44,607
	B. 執行済額	28,077	26,277	25,704	37,560	44,169
	うち交付金充当額	22,461	21,021	20,563	30,047	35,335
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	95.2%	99.8%	96.6%	98.7%	99.0%
予算の状況の説明	・夏休み等の長期休業期間の勤務を対象外経費としたこと、当初配置を予定していた特別支援教育コーディネーターが採用できなかったこと、臨時職員の勤務実績(見込み)を積算したことにより、9,122千円を減額補正した。 ・不用額438千円については、臨時職員の勤務実績等の確定分に伴うものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
特別支援教育支援員配置数 小学校:16人 中学校:7人 幼稚園:7人	目標	(小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:4人)	(小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:4人)	(小学校:16人 中学校:7人 幼稚園:5人)	(小学校:16人 中学校:7人 幼稚園:7人)
	実績	小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:4人	小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:3人	小学校:16人 中学校:7人 幼稚園:5人	小学校:16人 中学校:7人 幼稚園:7人
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	・年度当初は、各学校1名ずつ不足していたものの、2学期開始時には必要とする支援員を配置することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
		対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度	()	(80%以上)	()	()
			93.3%			
	目標	()	()	()	()	()
実績						
進捗状況説明	・2学期までに必要な支援員の配置が完了し、きめ細かな支援が実践できたことで、成果指標を達成することができた。					

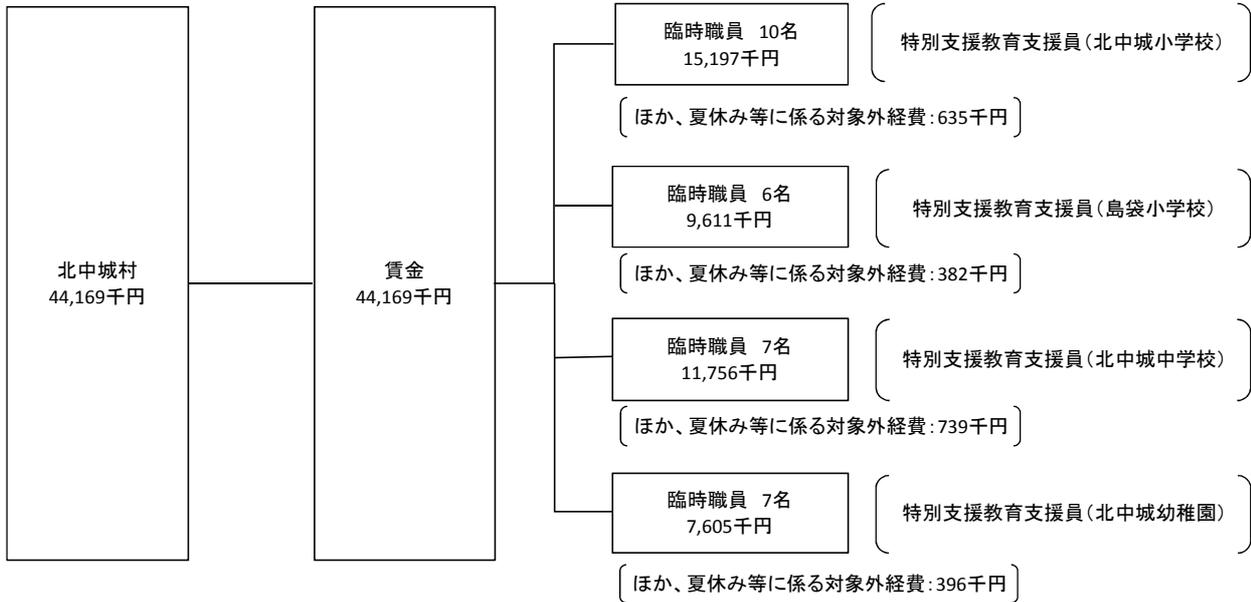
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かな支援を実践していくためには多くの支援員を確保する必要があるが、教育免許所持者に関わらず採用している現状である。支援の質が保てるよう、支援員の人材育成が課題である。 支援を必要とする幼児児童生徒が年々増加し、またその中でも情緒障害の児童生徒が増えている状況であり、その程度及び成長には個人差があるため、個々に応じた適切な対応や継続した支援体制の構築が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、支援員を対象とした研修会を定期的に開催することで、多様な障がいやこれらの支援方法に関する知識を共有しスキルアップを図る。 各校の特別支援教育主任教諭を中心に、学校間の連携を綿密に行える環境の整備を行い、対象幼児児童生徒の現状を共有することにより、充実した支援体制の構築を図る。

今後の取り組み方針

- 支援員を対象とした研修会を年3回開催し、支援方法の情報共有と個々のスキルアップに取り組む。
- 各校の特別支援教育主任教諭を中心に関係機関との連携強化により、支援を必要とする児童生徒の早期発見、早期教育が可能となる体制づくりに取り組む。
- 保育所(園)、幼稚園、小学校及び中学校の学校間や支援員と教員(担任)間の情報共有や意見交換の場を設定し、連携強化を図ることで、切れ目のない支援に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
46,321	44,169	35,335	8,834	2,152



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 支援員は、面接を経て経験や業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。 不用額は事業費の5%以内であり、妥当であると判断する。 児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目・用途は事業目的に即したものであると判断する。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-②	学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-エ	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成27~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	要保護児童やひとり親家庭等への支援 Ⅲ-3	
事業内容	学習の遅れがちな児童生徒に対し、基礎的・基本的知識や技能の習得に向けた支援を実践するため、学習支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,881	4,881	5,406		
		(b) 予算現額	4,236	4,632	4,607		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 645	▲ 249	▲ 799		
		(d) 繰越額	—	—	—		
	A. 計(b+d)		4,236	4,632	4,607		
	B. 執行済額		3,717	4,423	4,556		
	うち交付金充当額		2,973	3,538	3,644		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		87.7%	95.5%	98.9%		
予算の状況の説明		・中学校支援員の途中退職に伴い289千円を減額補正を行ったほか、夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外経費としたことで510千円を減額した。 ・不用額51千円については、臨時職員の勤務実績等の確定分に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	学習支援員配置数 小学校:2人 中学校:1人	目標	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	()	
		実績	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人		
達成状況説明	中学校の支援員が3学期途中で退職しその後の採用が出来なかったものの、4月当初から村立小中学校すべてに支援員を配置することができており、活動目標を概ね達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査における正答率30%未満の割合の減少	目標	()	(小5算数:3.7%以下 中2数学:2.8%以下)	()	()	()
		実績		小5算数:9.7% 中2数学:43.8%			
	沖縄県学力到達度調査における無答率の割合の減少	目標	()	(小5算数:4.1%以下 中2数学:9.7%以下)	()	()	()
		実績		小5算数:4.6% 中2数学:15.6%			
	進捗状況説明	・平均正答率30%未満の割合については、小中学校ともに減少させることができず、中学校では県平均を上回る割合となったものの、小学校では県平均以下となっており、本事業での成果が一部見られた。 ・無答率の割合についても減少には至らなかったものの、小学校では県平均以下の割合となっており、一定の成果が見られた。					

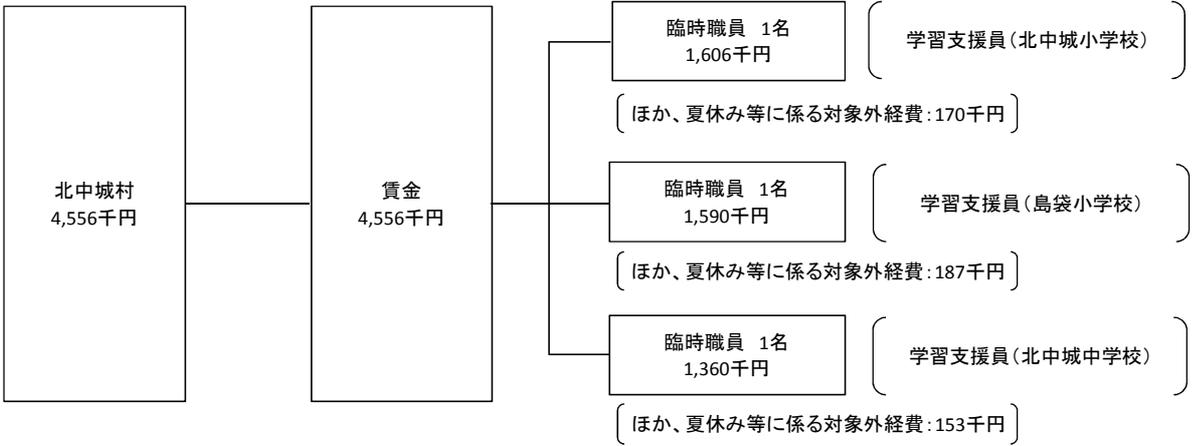
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援を必要とする児童生徒が年々増えており、特に正答率30%未満の減少については、LD(学習障害)の疑いのある児童生徒が含まれており、どのように支援し学習の定着に繋げるかが課題である。 ・学習支援の必要な児童生徒への支援方法を工夫し、ひとりひとりにあった支援を行わなければならないため、担任や教科担任との情報共有のあり方について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LDの疑いのある児童生徒に対する支援方法について、担任、教科担任、特別支援教育主任教諭、特別支援教育支援員と連携し、個々に応じた支援方法について研究・検討を図る。 ・昨年度に引き続き、学習支援を必要とする児童生徒の担任や教科担任だけでなく、特別支援教育主任教諭や特別支援教育支援員との意見交換や情報共有の機会を多く設けることで、支援についての確認や状況、支援後の変容について把握する。

今後の取り組み方針

・教諭と支援員によるチームティーチングによるきめ細やかな指導・学習支援により、支援を必要とする児童生徒の基礎学力向上に取り組む。
 ・学習支援員の指導力の向上を図るため、学校間で連携協働し、各学校における成果・課題を共有することや担任等との意見交換等の場の設定に取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,066	4,556	3,644	912	510



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員は、教員免許を有している者を面接を経て採用しており、妥当であると判断する。 ・不用額は事業費の5%以内であり、妥当であると判断する。 ・児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目・用途は事業目的に即したものであると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-③	児童生徒の県外派遣旅費等支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成29～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3		
事業内容	運動競技及び文化活動を奨励することにより、児童生徒の健全育成及び将来の沖縄振興に資する人材育成のため、児童生徒の県外大会等派遣費用について、支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,537				
		(b) 予算現額	3,177				
		(c) 増減額 (b-a)	640				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	3,177				
	B. 執行済額		2,853				
	うち交付金充当額		2,282				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		89.8%				
予算の状況の説明		・当初想定していた派遣人数を上回ったため、補助金640千円を増額補正した。 ・不用額324千円については、補助金額確定に伴う執行残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	児童生徒の県外大会派遣支援		目標 (支援の実施)	()	()	()	
			実績	支援の実施			
達成状況説明	・本村の派遣基準に基づき、適切な支援を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	大会等派遣児童生徒数(累計)		目標 ()	(100人)	()	()	()
			実績	107人			
	【H30成果目標】派遣された児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。		目標				80%以上
	進捗状況説明	・小学校では2団体46人、中学校では3団体61人を県外へ派遣し、成果目標を達成することができた。					

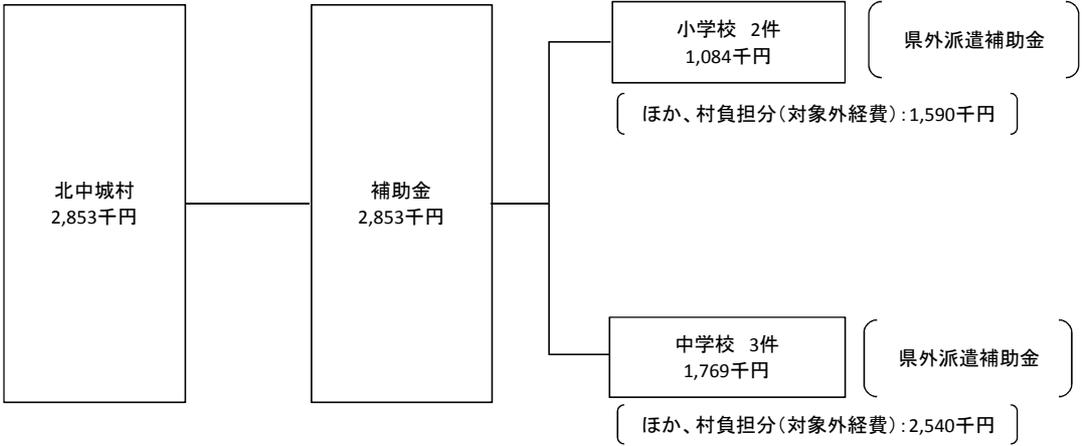
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・県外大会への派遣決定後、補助金申請までに時間を要している場合があるため、円滑な手続きが行えるよう学校との連携が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会結果等の情報収集を迅速に行い、補助金申請に必要な書類等の連絡・周知を徹底することで、児童生徒への確実な支援を図る。

今後の取り組み方針

- ・児童生徒の健全育成を図るため、確実な支援ができるよう、学校との連携強化に取り組む。
- ・アンケート調査を実施し、県外大会に参加したことが意欲向上に寄与したか、また、健全育成及び人材育成に繋がっているのかを児童生徒及びその保護者へ確認することにより、事業の効果検証に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,983	2,853	2,282	571	4,130



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助先は、要綱等に則り交付決定を行っており、妥当である と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は村の規定に基づき適正な規模であった。 ・受益者負担額を1/2としており、負担割合は妥当であると考 える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途については、実績報告等で確認・精査しており、 事業目的に即した必要なものであると判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

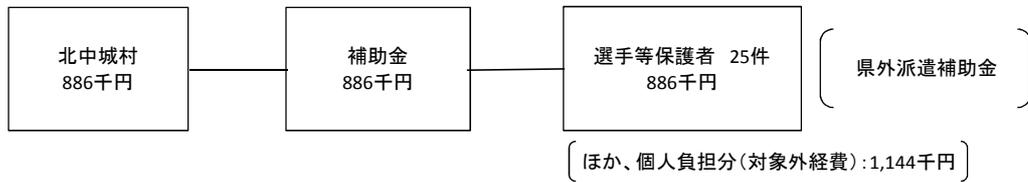
市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-④	小中学生県外派遣支援(社会教育関連)事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-エ		
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	要保護児童やひとり親家庭等への支援 Ⅲ-3		
事業内容	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、村・県を代表する児童・生徒や少年チーム等のスポーツ・文化活動に対して支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	494				
		(b) 予算現額	886				
		(c) 増減額 (b-a)	392				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	886				
	B. 執行済額		886				
	うち交付金充当額		708				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		・当初想定していた派遣人数を上回ったため、補助金392千円を増額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	小中学生の県外大会派遣支援		目標 (支援の実施)	()	()	()	
			実績	支援の実施			
達成状況説明	・本村の派遣基準に基づき、適切な支援を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	大会等派遣小中学生数(累計)		目標 ()	(26人)	()	()	()
			実績	59人			
	【H30成果目標】派遣された児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。		目標				80%以上
	進捗状況説明	・事前の制度周知に努めたことで、成果目標を大幅に達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 各種大会の結果について聴取を行い情報収集に努め、派遣制度の周知を行ったことで、成果目標を達成した要因と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、派遣制度の周知を行うことで、小中学生のスポーツ文化活動に対する支援の充実化を図る。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> 村広報誌やホームページによる制度周知に取り組む。 児童生徒らが大会に参加してどのような考え方を持ったか意識調査を行い、事業の効果検証に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,030	886	708	178	1,144



資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助先は、要綱等に則り交付決定を行っており、妥当である と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・不用額はなく、予算規模は適正である と考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・航空賃以外は受益者にて負担しており、負担割合は妥当 である と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、実績報告等で確認・精査しており、 事業目的に即した必要なものである と判断する。

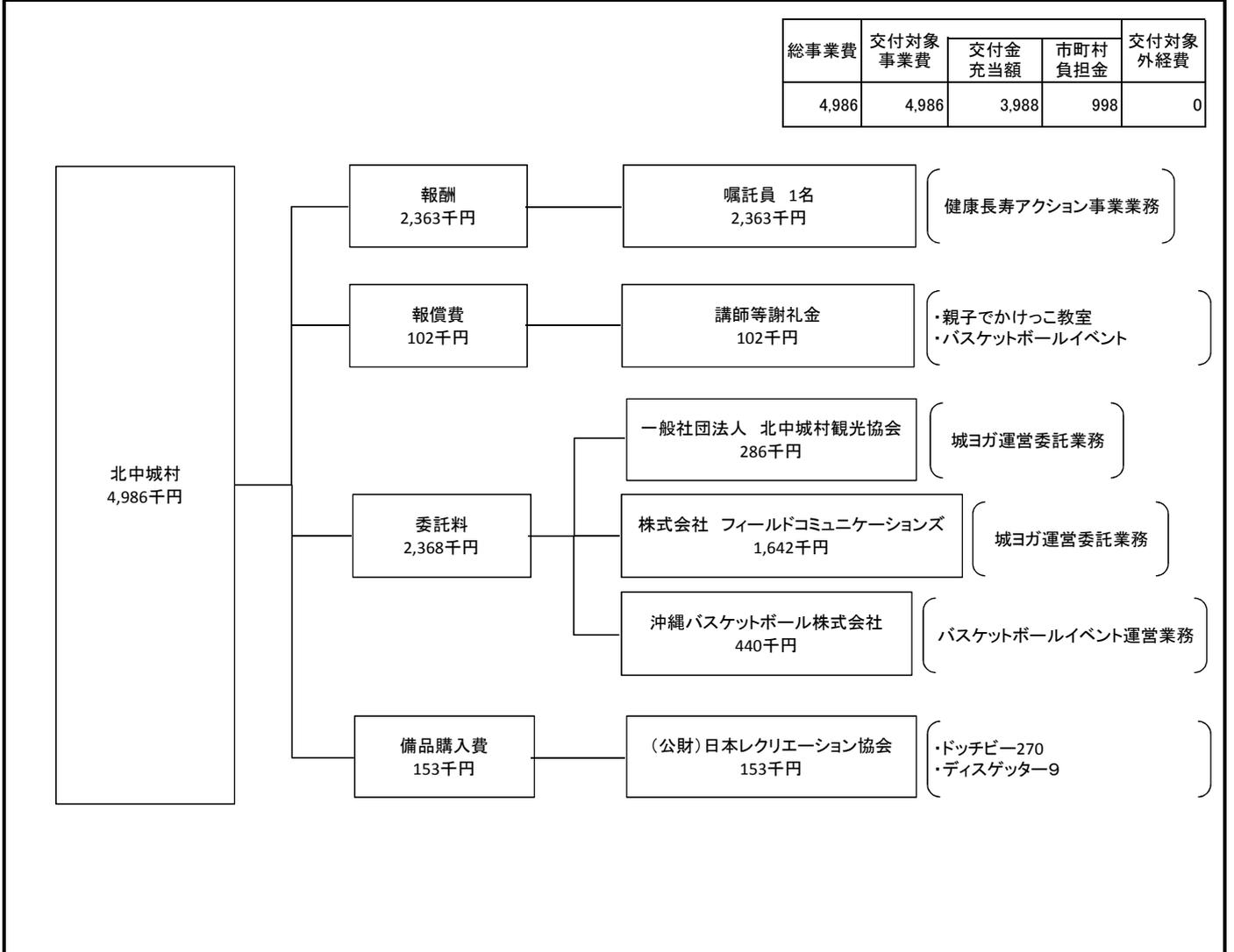
市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-①	健康長寿のまちづくりアクション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成26～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進	
事業内容	村民の運動習慣の啓発に繋げ、健康長寿のまちづくりを展開するため、定例健康イベント(朝ヨガ・太極拳等)を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		3,000	2,873	7,446	5,602	
			3,000	2,814	6,814	5,855	
			0	▲ 59	▲ 632	253	
			—	—	—	—	
		3,000	2,814	6,814	5,855		
	B. 執行済額	2,505	2,680	6,345	4,986		
	うち交付金充当額	2,004	2,144	5,076	3,988		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	83.5%	95.2%	93.1%	85.2%		
予算の状況の説明	・定例健康イベントとして、バスケットボールイベントを追加したことで、委託料253千円を増額補正した。 ・不用額869千円は、委託業務の精算に伴う743千円、報償費の実績に伴う56千円並びに印刷製本の取りやめに伴う70千円によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	村民会議等開催	目標	(村民会議の開催)	(3回)	(2回)	(3回)	
		実績	村民会議の開催	2回	2回	5回	
	定例健康イベント	目標	()	()	(10回)	(10回)	
		実績			10回	10回	
	親子で参加できる健康イベントの開催	目標	()	()	()	(1回)	
		実績				1回	
	北中城村長杯スポーツ大会の実施	目標	()	()	()	(1回)	
		実績				1回	
達成状況説明	・健康長寿のまちづくり村民会議は、行政との連携を密に行うため、目標値を上回る開催回数となった。 ・定例健康イベントとして、ヨガ及び太極拳を計10回開催することができた。 ・親子で運動習慣定着を図る目的として、「親子でかけっこ教室」を実施することができた。 ・村長杯スポーツ大会として、プロバスケットボールチームのホームコートで小学生から高校生までのバスケット交流戦を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	村内各種団体と連携した健康づくりイベント	目標	()	()	(300人以上)	(3イベント以上)	()
		実績			999人	3イベント	
	定例健康イベントの参加者数	目標	()	()	(1,000人以上)	(1,000人以上)	()
		実績			1,616人	1,027人	
	進捗状況説明	・村スポーツ推進協議会などの各種団体との連携を図ったことで、「健活フェスタ」や大型商業施設を活用した「モールウォーキング」、「タウンウォーキング」を実施することができ、成果目標を達成することができた。 ・定例健康イベントとして、これまで開催してきた「城ヨガ」に加え、新たに「太極拳」を開催したことで、幅広い世代が参加しやすい環境となり、成果目標を上回る参加者となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・健康長寿のまちづくり村民会議の構成組織として健康サポートチームを立ち上げ、各種健康イベントとの連携が図られたことで、各世代をターゲットとしたイベント内容に改善され、多くの参加者を集めることができた要因と考える。</p>	<p>・引き続き、健康サポートチームを中心に民間企業や地域とのネットワークを構築することで、女性長寿日本一の村として村民の健康づくりの機運醸成を図る。</p>

今後の取り組み方針

・健康サポートチームを中心に、地域の健康課題の共有、民間企業と連携した健康イベントの開催、庁内連携による健康事業の実施に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・事業者は、村契約規則に基づき選定しており、妥当であったと判断する。</p> <p>・予算規模については、事前に見積りを取るなど、内容を精査しており、妥当であったと判断する。</p> <p>・費目・用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	